

2020年6月期 第2四半期 決算説明会資料

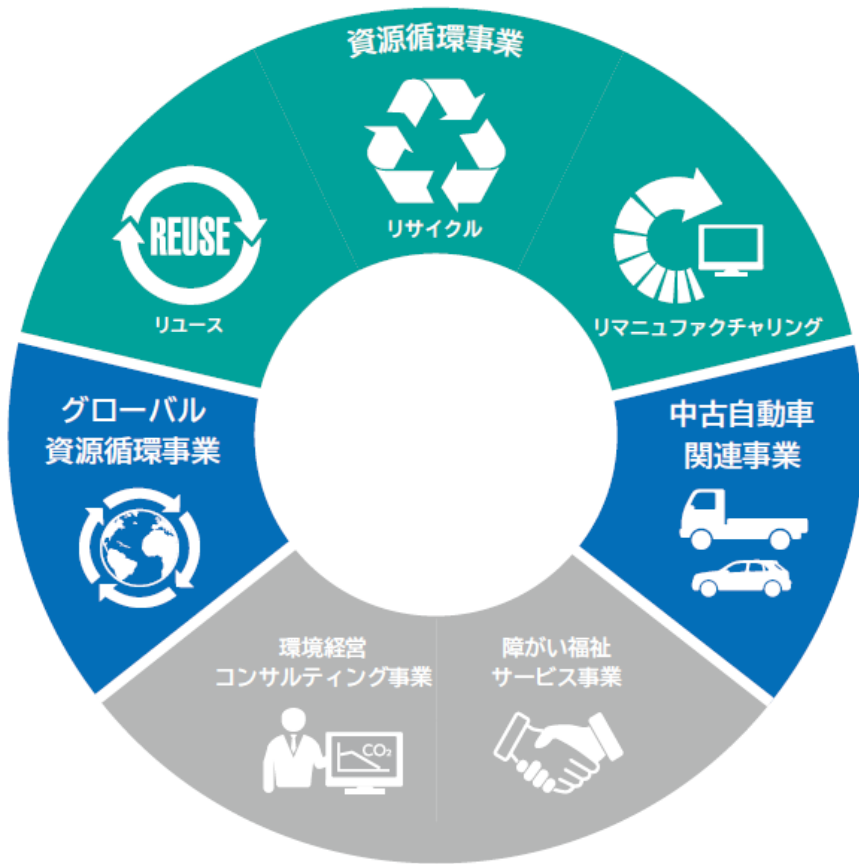
株式会社エンビプロ・ホールディングス
2020年2月19日



1. 第2四半期 決算概要
2. 2020年6月期 見通し
3. 会社概要
4. 参考データ

1. 第2四半期 決算概要

事業セグメント



事業セグメント		事業会社
資源循環	リユース (再利用)	中古製品・部品を機能や価値をそのままに流通を行う
	リサイクル (再資源化)	金属スクラップ・廃棄物等を破碎し、モノの物質特性の違いを利用して素材ごとに物理選別し再資源化を行う
	リマニュファクチャリング (再生産)	リサイクル技術を一歩進め、廃棄物やスクラップ等から再生原料・再生品の製造を行う
グローバル資源循環		金属、プラスチックスクラップ、バイオマス燃料等多様な資源の輸出入・3国間貿易を通して最適な国際資源循環を行う
中古自動車関連		高品質な日本製の中古自動車・重機や、エンジンをはじめとした中古自動車部品を仕入れ、海外への輸出や3国間貿易を行う
その他		企業の環境戦略立案やCO2削減計画の支援など、環境経営に専門特化したコンサルティングサービスを行う 障がい者就労支援などを行う

第2四半期 ハイライト

業績

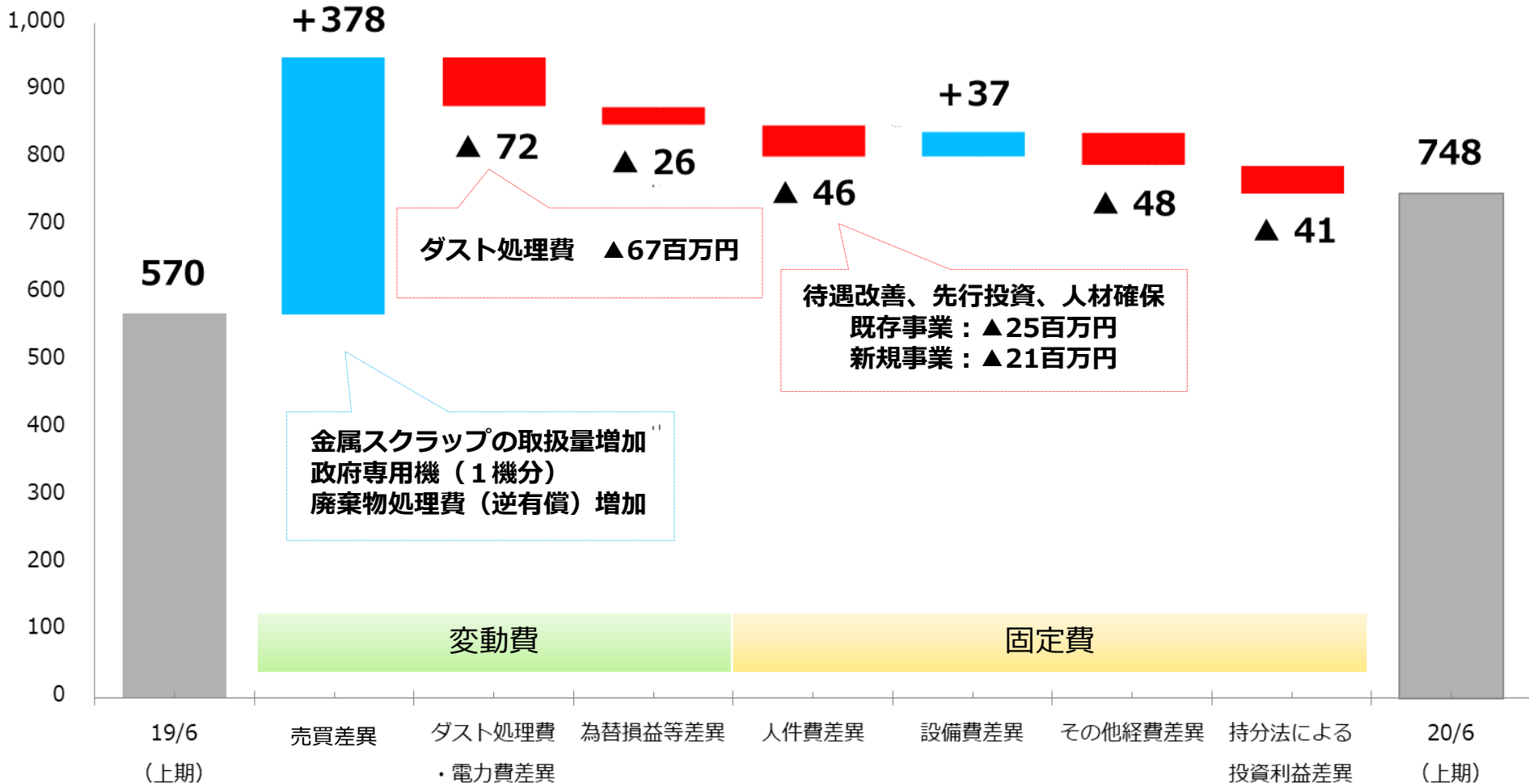
売上高	18,691百万円	(前年同期比 7.6%増)
営業利益	660百万円	(前年同期比 57.8%増)
経常利益	748百万円	(前年同期比 31.2%増)
四半期純利益	549百万円	(前年同期比 75.0%増)

主要TOPICS

- 鉄スクラップ価格（東京製鐵田原海上特級価格）の、平均価格が24,302円（前年上期は35,082円）であったが、扱い量を増やすことで売上を確保した
- 「持続可能社会実現の一翼を担う」のミッションステートメントのもと、「既存事業の深耕」、「新たな柱の構築」、「基盤の強化」を推進
- 資源循環事業の新規事業関連分 経常損失1億円（VOLTA、P2P等）
- 設備投資7億円（支払ベース）
- リチウムイオン2次電池等リサイクルライン稼働の遅れ

経常利益差異分析

(百万円)



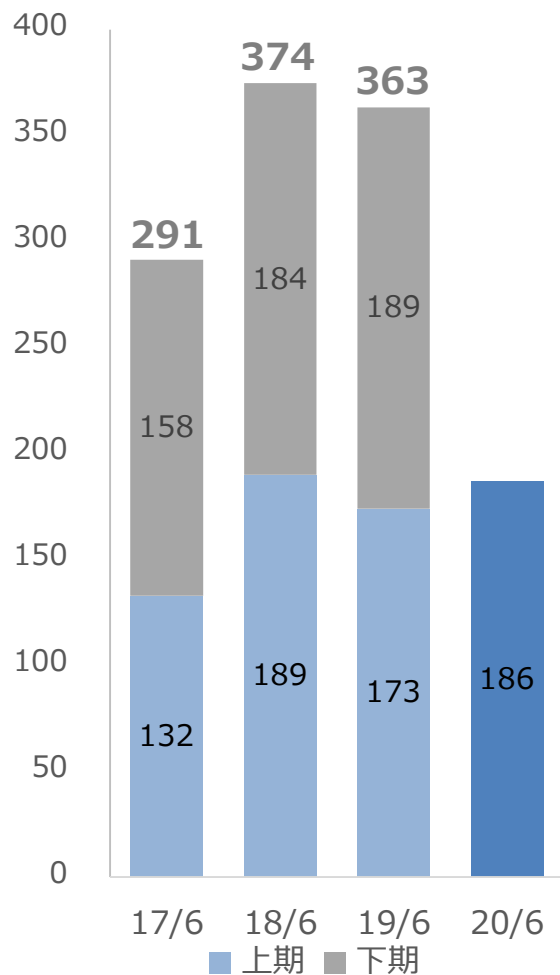
連結業績推移



売上高

前年同期比

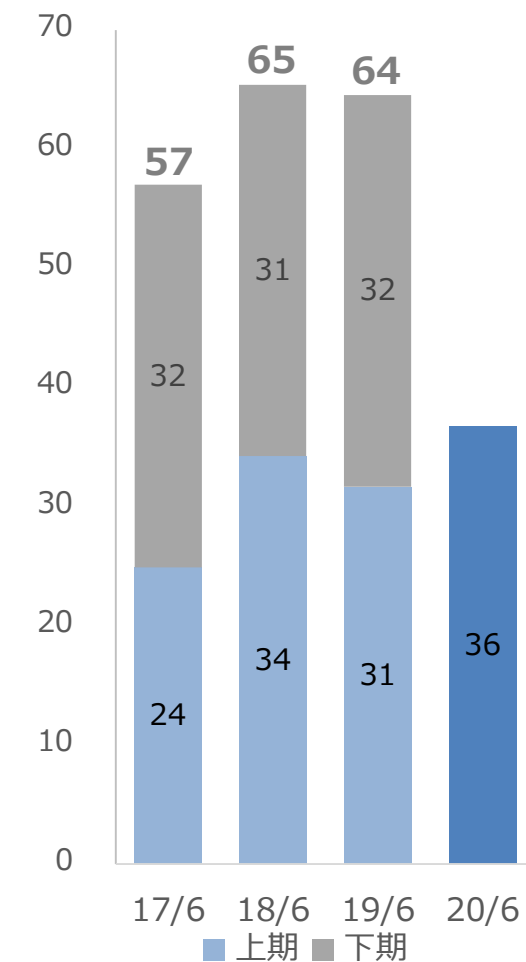
(単位：億円) 7.6%増



売上総利益

前年同期比

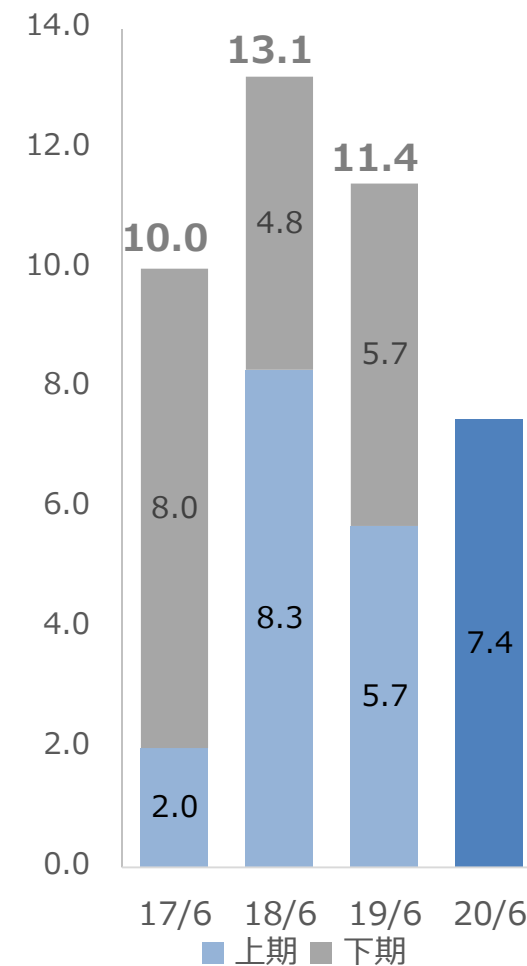
(単位：億円) 16.1%増



経常利益

前年同期比

(単位：億円) 31.2%増



第2四半期 セグメント別業績概要



(百万円)

売上高	2019年6月期(上期)	2020年6月期(上期)		前年同期比
	実績	実績	構成比	増減率
連結	17,376	18,691	100.0%	7.6%
資源循環事業	6,446	5,775	28.5%	▲ 10.4%
グローバル資源循環事業	10,227	11,007	54.3%	7.6%
中古自動車関連事業	3,087	3,333	16.5%	8.0%
その他※	269	148	0.7%	▲ 44.8%
調整額	▲ 2,653	▲ 1,573	-	-

セグメント利益	2019年6月期(上期)	2020年6月期(上期)		前年同期比
	実績	実績	構成比	増減率
連結	570	748	100.0%	31.2%
資源循環事業	465	310	38.7%	▲ 33.3%
グローバル資源循環事業	136	394	49.1%	188.4%
中古自動車関連事業	▲ 0	80	10.1%	-
その他※	44	17	2.1%	▲ 61.5%
調整額	▲ 75	▲ 53	-	-

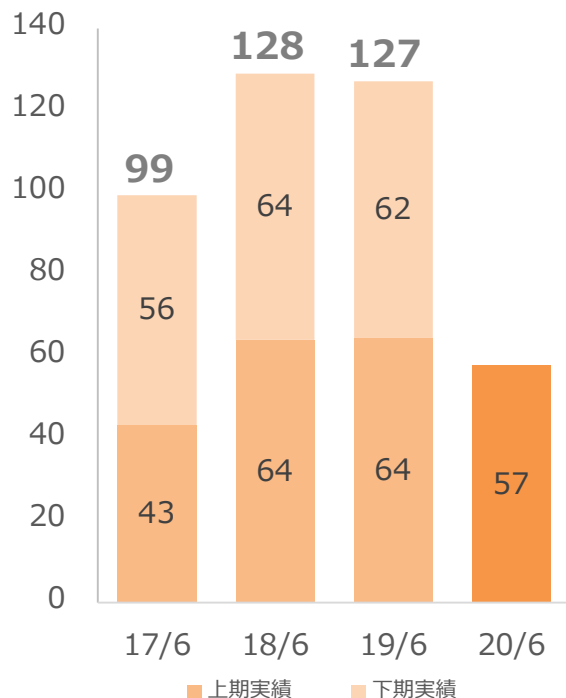
※その他には、2018年12月までの(株)E3実績を含む

セグメント別実績【資源循環】

売上高

前年同期比
10.4%減

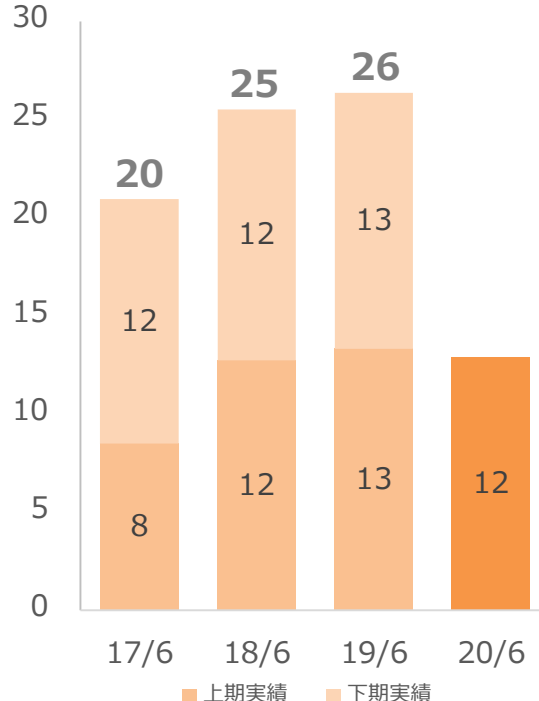
(単位：億円)



売上総利益

前年同期比
3.4%減

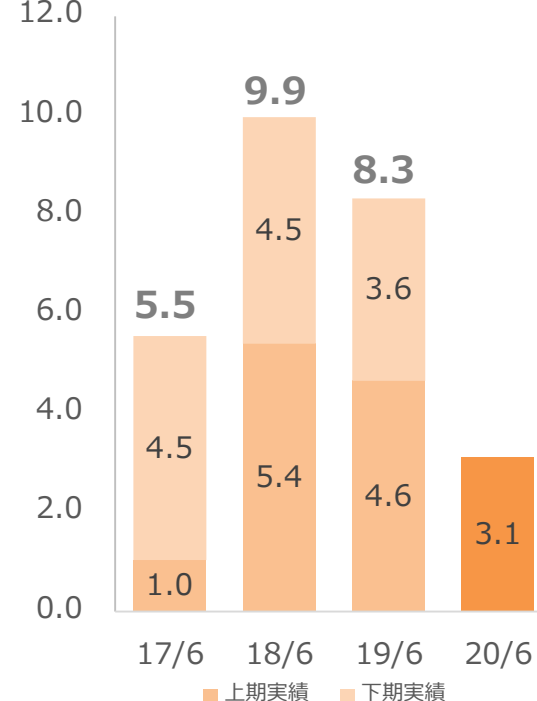
(単位：億円)



経常利益

前年同期比
33.3%減

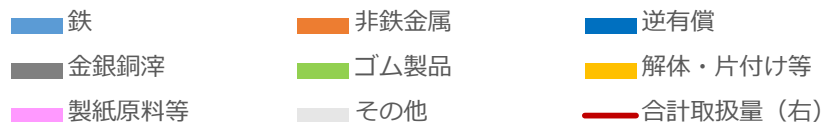
(単位：億円)



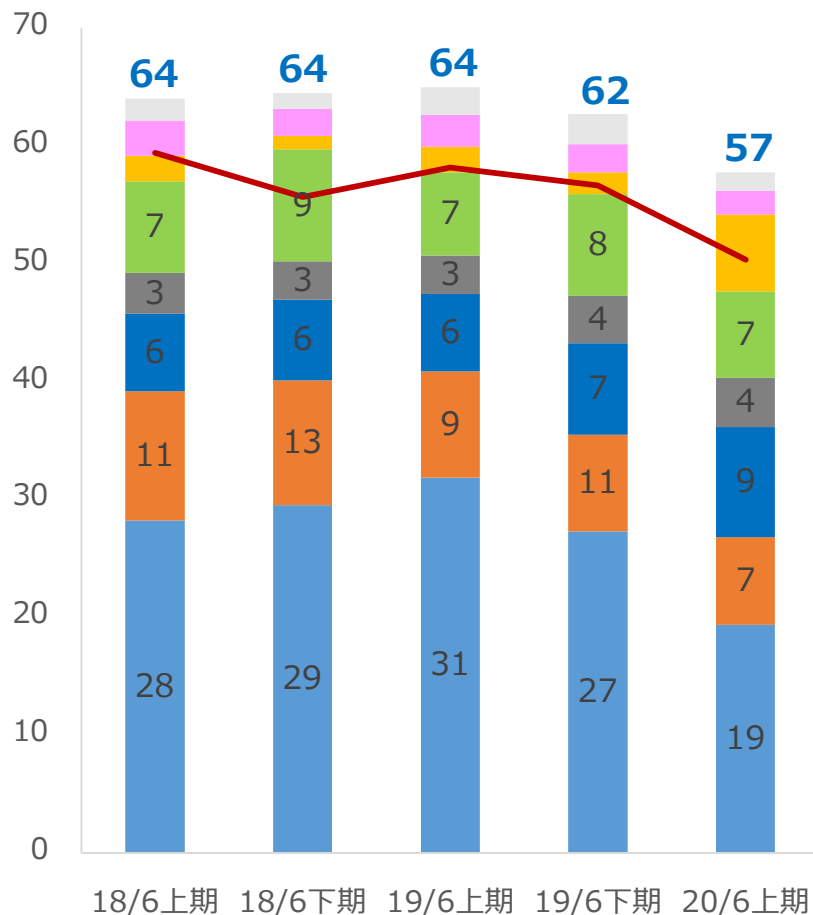
- 鉄・非鉄金属スクラップ価格が弱含みに推移し収益を圧迫。
- 最終処分場等の廃棄物の処理料金値上げや、受入の制限が発生（災害廃棄物の発生も影響）。
- 当グループも廃棄物の受入を制限し取扱量が減少。価格転嫁により収益は確保。
- リチウムイオン2次電池のブラックサンド製造設備稼働が第3四半期以降となる。
- 新規事業（VOLTA、P2P他） 経常損失1億円（前年同期59百万円）

セグメント別実績【資源循環】

品種別売上高・合計取扱量



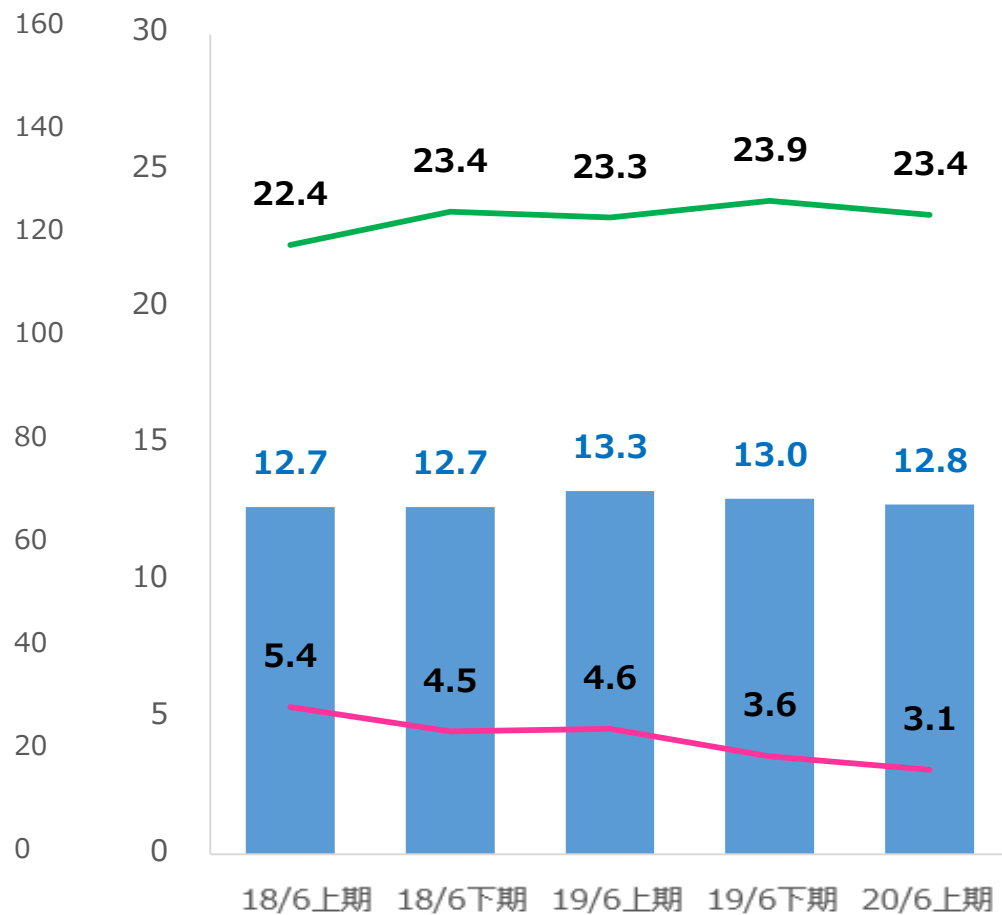
(単位：億円)



売上総利益・限界利益・経常利益



(単位：千t) (単位：億円)

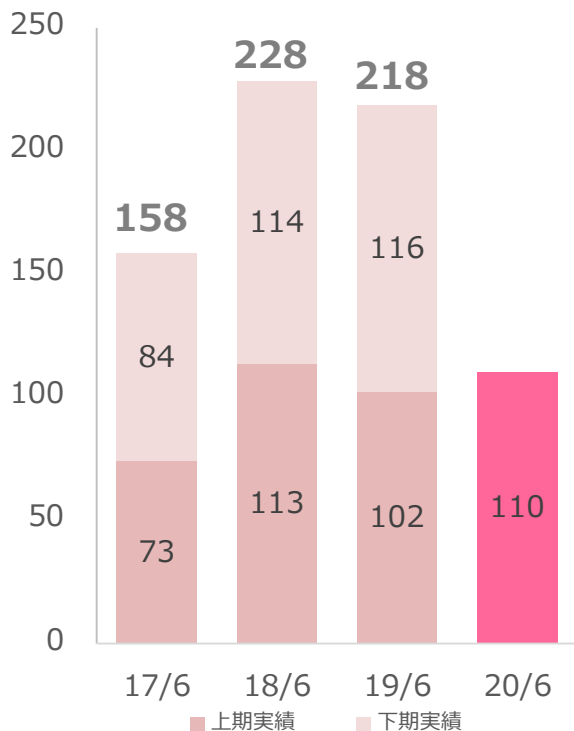


セグメント別実績【グローバル資源循環】

売上高

前年同期比
7.6%増

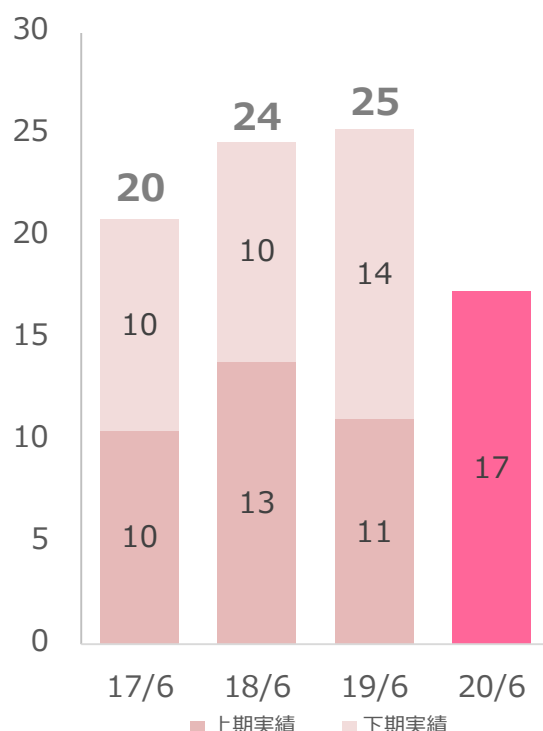
(単位：億円)



売上総利益

前年同期比
56.8%増

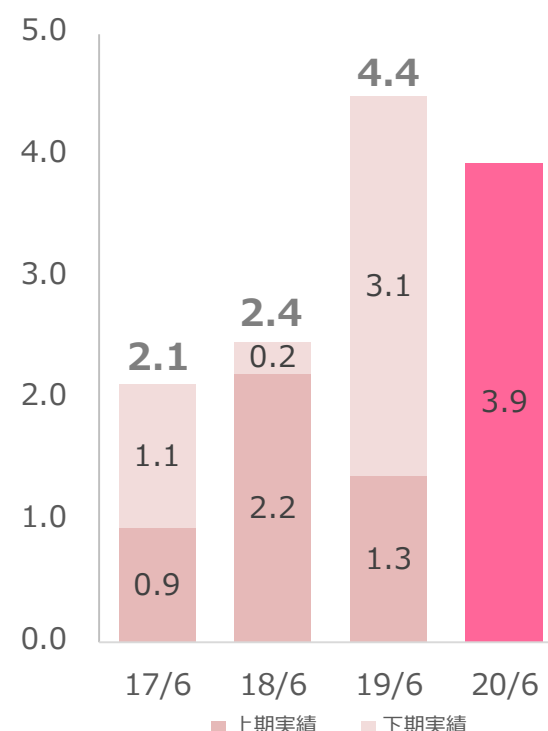
(単位：億円)



経常利益

前年同期比
188.4%増

(単位：億円)



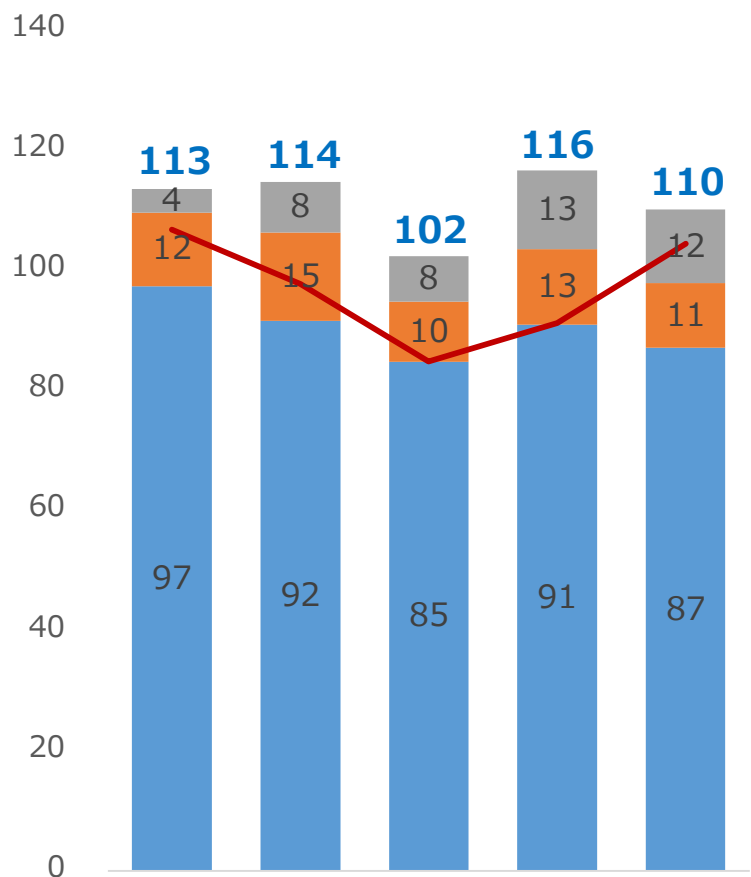
- 鉄・非鉄金属スクラップ価格が弱含みに推移する中で相場の変動を活用。
- 取扱量が増加したことにより、鉄スクラップ相場が前年同期を下回る中で増収。
- 日本国政府専用機の販売（2機の内残り1機分）。
- 木質系バイオマス燃料（PKS）の、日本マーケットへの初出荷を達成。
- 欧州駐在事務所を開設（10月）

セグメント別実績【グローバル資源循環】

品種別売上高・合計取扱量

鉄 非鉄 バイオマス他 合計取扱量(右)

(単位：億円)

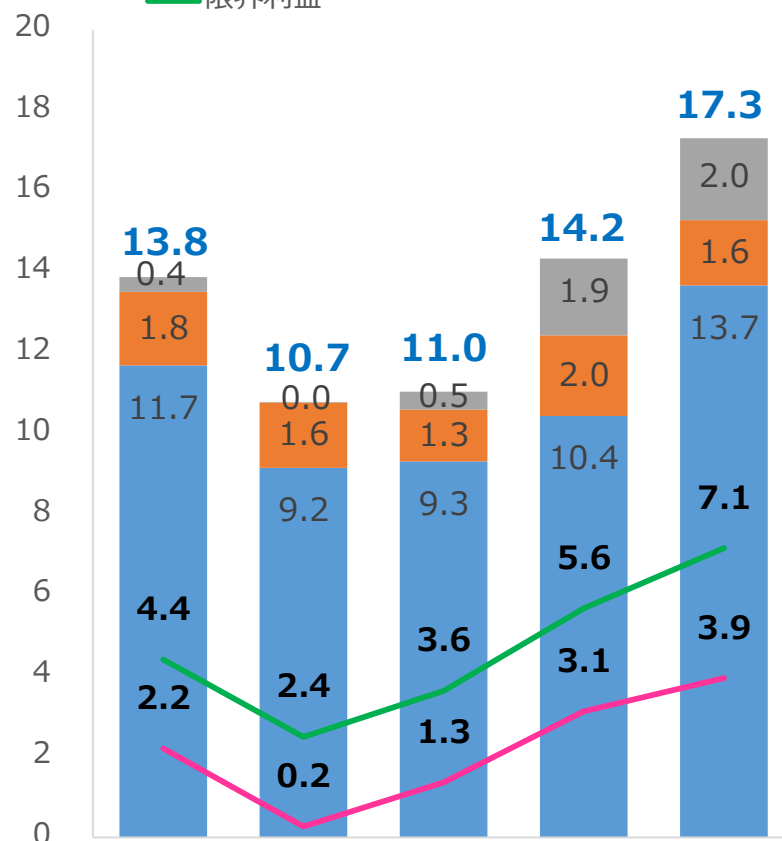


18/6上期 18/6下期 19/6上期 19/6下期 20/6上期

品種別売上総利益・合計経常利益・限界利益

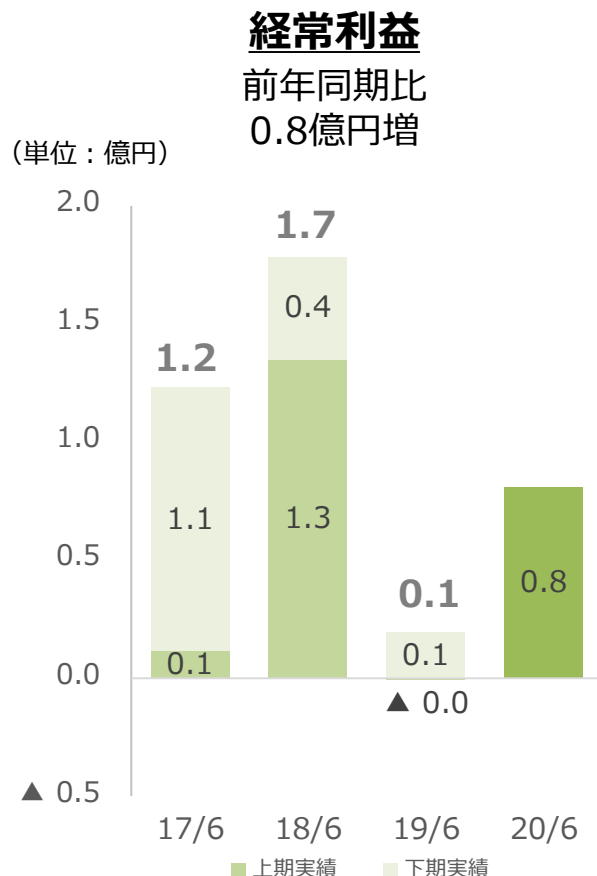
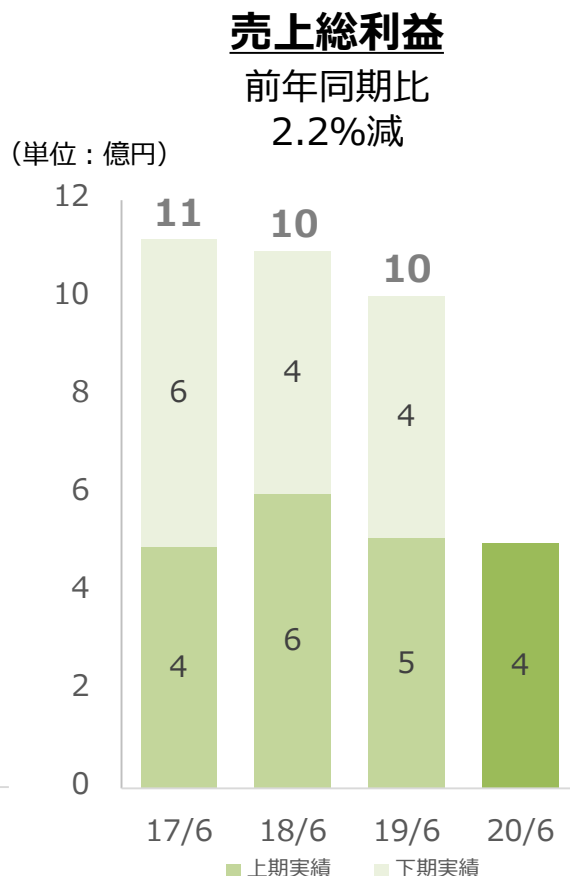
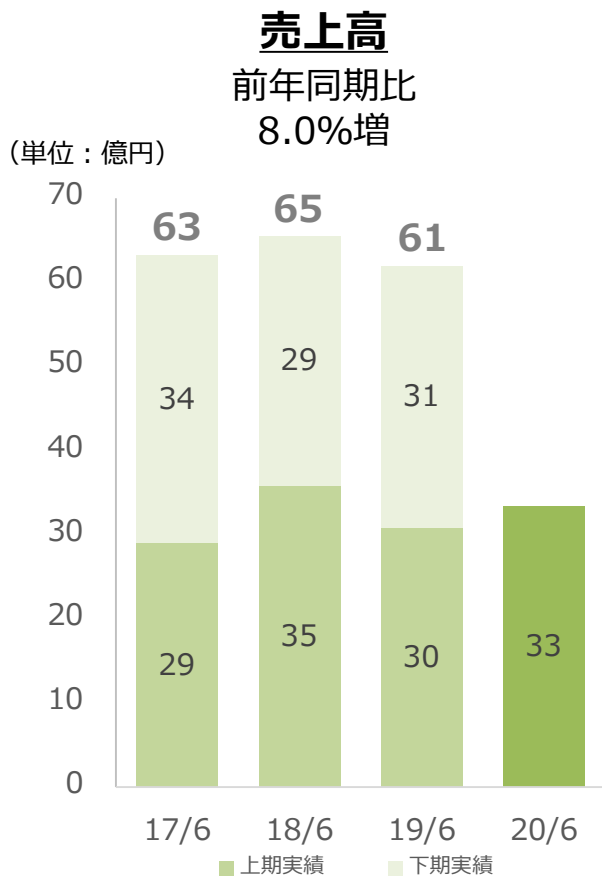
鉄 非鉄
バイオマス他 経常利益
限界利益

(単位：億円)



18/6上期 18/6下期 19/6上期 19/6下期 20/6上期

セグメント別実績【中古自動車関連】



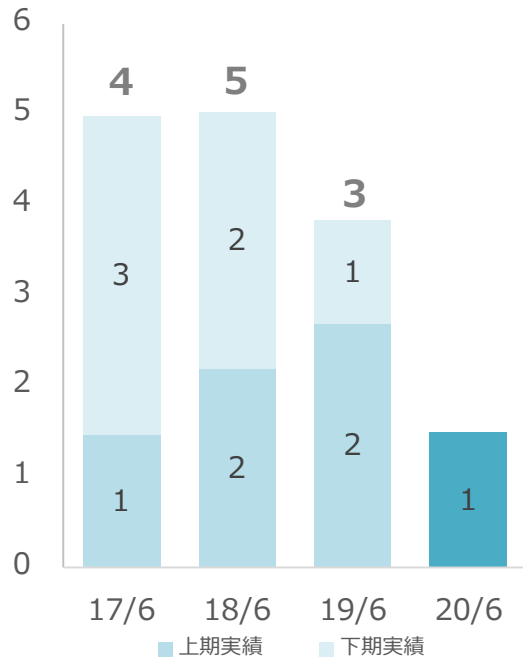
- 主要輸出先国の1つであるチリでの中古車需要は弱含みで推移。
- 東南アジア向け中古トラックの販売が増加。
- ウガンダでの中古車販売・整備事業の収益が改善。
- 海外規制の影響により前年同期低調であった物流代行サービスの扱い量が回復。
- 中古車積み込みヤード縮小等による固定費の削減。

セグメント別実績【その他】

売上高

前年同期比
44.8%減

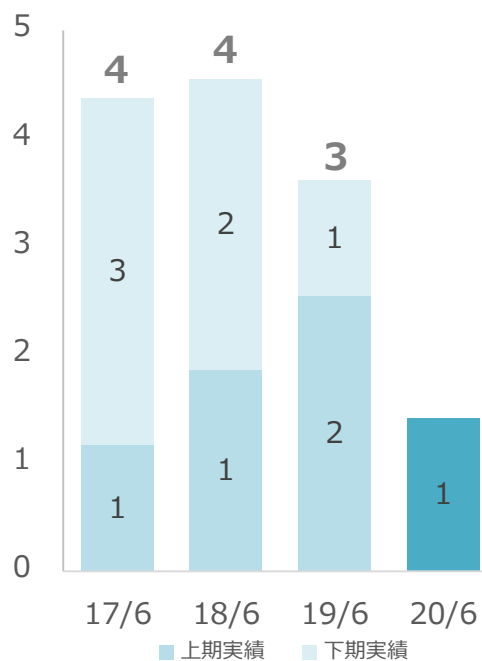
(単位：億円)



売上総利益

前年同期比
44.6%減

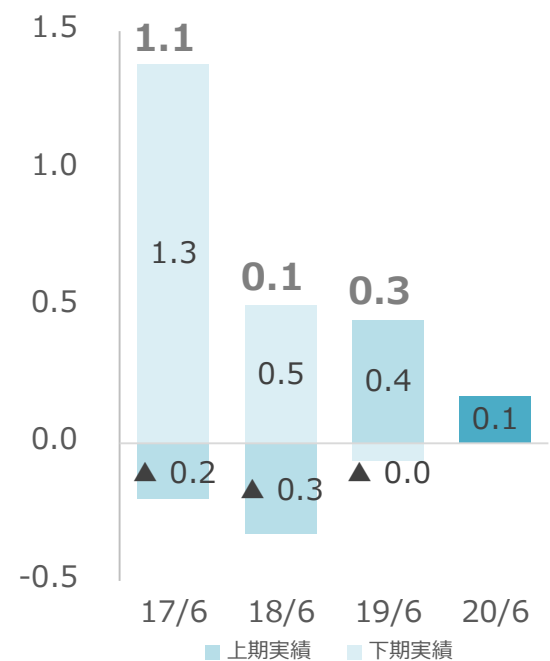
(単位：億円)



経常利益

前年同期比
61.5%減

(単位：億円)



《環境経営コンサルティング事業》

- C D P 回答及び評価向上支援等の継続受注案件が順調に進捗。
- T C F D (気候変動関連財務情報開示タスクフォース) 対応支援等の新たなサービスを開始。

《障がい福祉サービス事業》

- 静岡県富士宮市に就労継続支援 B 型事業所を開設 (8月)。

連結貸借対照表概要



(百万円)

	2019年 6月末	2019年 12月末	増減額		2019年 6月末	2019年 12月末	増減額
流動資産	11,152	10,636	▲ 516	流動負債	5,172	5,108	▲ 63
固定資産	8,607	9,194	586	固定負債	3,025	2,838	▲ 186
（有形固定資産）	6,130	6,632	501	負債合計	8,197	7,947	▲ 250
（無形固定資産）	89	79	▲ 10	純資産	11,562	11,883	321
（投資その他の資産）	2,386	2,481	95	（株主資本）	11,166	11,501	335
資産合計	19,759	19,830	70	負債純資産合計	19,759	19,830	70

主要TOPICS

- 流動資産（現金及び預金1,802百万円、受取手形及び売掛金▲1,183百万円、商品及び製品▲889百万円、その他流動資産▲303百万円）
- 固定資産（建設仮勘定459百万円、投資有価証券66百万円）
- 流動負債（短期借入金420百万円、未払法人税等107百万円、その他流動負債▲427百万円、支払手形及び買掛金▲113百万円）
- 固定負債（長期借入金▲174百万円）
- 自己資本比率 58.1%（前年対比1.4%増）

連結キャッシュ・フロー計算書概要



(単位：百万円)

項目	2019年6月期 上期	2020年6月期 上期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 283	2,625	2,908
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 36	▲ 758	▲ 722
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 854	▲ 63	791
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 4	0	3
現金及び現金同等物の増減額	▲ 1,178	1,802	2,980
現金及び現金同等物の期首残高	4,856	2,714	▲ 2,142
現金及び現金同等物の期末残高	3,678	4,516	837

主要TOPICS

- 営業CF：(収入) 売上債権の減少額1,183百万円、たな卸資産の減少額833百万円、税金等調整前四半期利益807百万円
(支出) 法人税等の支払額185百万円
- 投資CF：(収入) 有形固定資産売却による収入15百万円
(支出) 有形固定資産の取得774百万円
- 財務CF：(収入) 短期借入金の増加額420百万円
(支出) 配当金の支払額234百万円、長期借入金の返済221百万円

2. 2020年6月期 見通し

足元の事業環境と取り組み

事業環境

- 新型肺炎の感染拡大による影響が日本経済に出始めており、当グループの事業活動にも、今後影響が及ぶ可能性がある。現在は鉄・非鉄金属スクラップ価格が弱含みな状況となっている。

業績予想前提条件：鉄相場25千円/ t (20.5千円)、銅相場600千円/ t (680千円)、為替105円/USD(109円台)

※ () 内は2月18日時点価格

下期の主な取り組み

- ① 鉄スクラップの取扱量を増やすと同時に非鉄金属スクラップ、レアメタル、貴金属（金銀滓）の取扱量を増やす。→スクラップヤードの拡張。川崎（4月）、更に西日本ヘヤード拡張計画あり。
- ② 金属相場に左右されにくい事業領域の取り扱いを増やす。
 - ・ 廃棄物処理（逆有償）を増やす。→通期19億円（前期比+6億円）。
 - ・ 廃棄物由来のプラスチックのリサイクル率を上げる。→高充填高速溶融機による取り組み。
 - ・ プラント解体等で情報源に近い業界との協業モデルを増やす。→日本資産評価士協会との取組みを4月スタート予定。
- ③ 新たな輸出入先、輸出入商材、三国間貿易を増やす。
 - ・ PKS、木質ペレットの輸入及び三国間貿易を増やす。→PKSの日本向け上期1万t、通期3万t見込み。
 - ・ 欧州からの金銀滓の輸入を増やす。→前期実績90t、上期実績226t、通期目標500tに対し350tの見込み。
 - ・ 新たな貿易アイテムを増やす。（プラスチックペレット、金属商品等）→LIBを追加、ビレット追加検討。
- ④ LIBリサイクルプラントを安定操業し、次の展開を模索する。→2月末本格的実証テスト。
- ⑤ 経営基盤、成長基盤を長期的目線で強化する。
 - ・ 人件費の上昇をまかなえる生産性を向上させる。
 - ・ 攻めのガバナンスで長期的成長の基礎を作る。
 - ・ 新たな人材を積極的に採用し、同時に既存人材の能力開発を強化する。

2020年6月期業績見通し（連結）



(百万円)

	2019年6月期			2020年6月期				
	上期 (実績)	下期 (実績)	通期 (実績)	上期 (実績)	下期 (予想)	通期 (予想)	前年比	
							増減額	増減率
売上高	17,376	18,960	36,336	18,691	17,879	36,571	234	0.6%
売上総利益	3,165	3,288	6,454	3,674	3,766	7,440	985	15.3%
営業利益	418	420	839	660	320	981	141	16.9%
経常利益	570	571	1,141	748	502	1,251	109	9.6%
税金等調整前 当期純利益	526	611	1,138	807	451	1,258	119	10.5%
当期純利益※	314	472	787	549	342	892	105	13.4%
限界利益	3,276	3,405	6,681	3,554	3,629	7,184	502	7.5%
E B I T D A※	693	789	1,482	925	708	1,634	151	10.2%
純粋固定費※	2,834	2,952	5,786	2,892	3,221	6,114	327	5.7%
ROE	—	—	7.1%	—	—	7.7%	0.6%	8.4%

※当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

※ E B I T D A = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却

※純粋固定費 = 【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】 - 【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

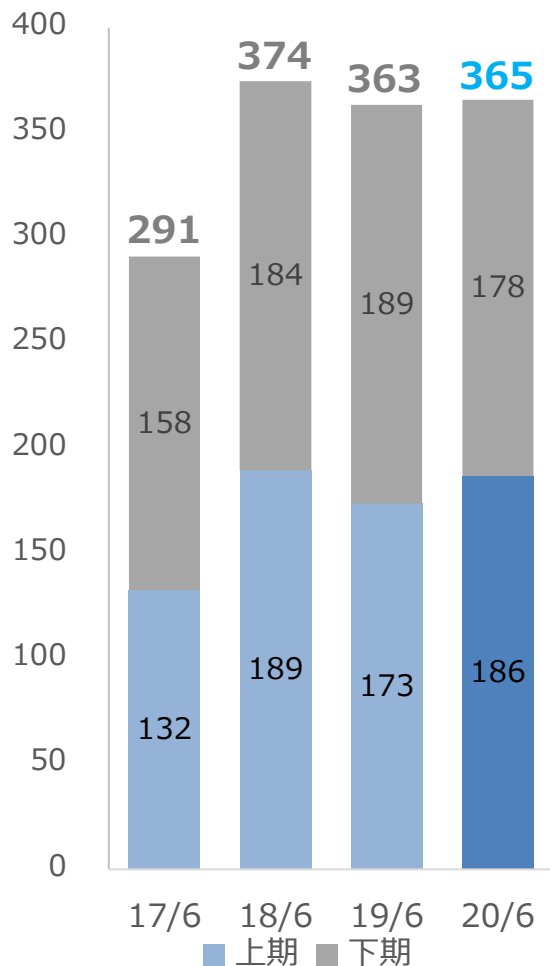
2020年6月期業績見通し 連結業績推移



売上高

前年同期比
0.6%増

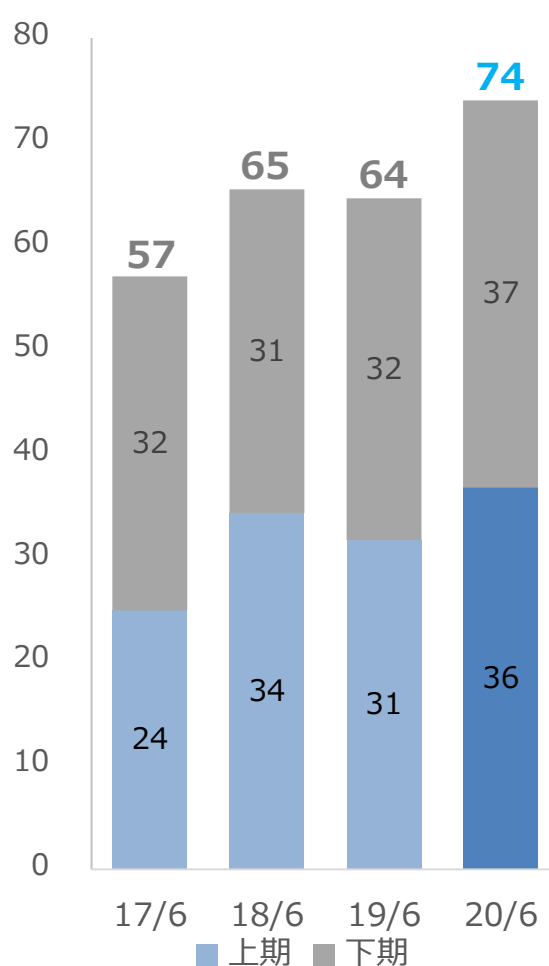
(単位：億円)



売上総利益

前年同期比
15.3%増

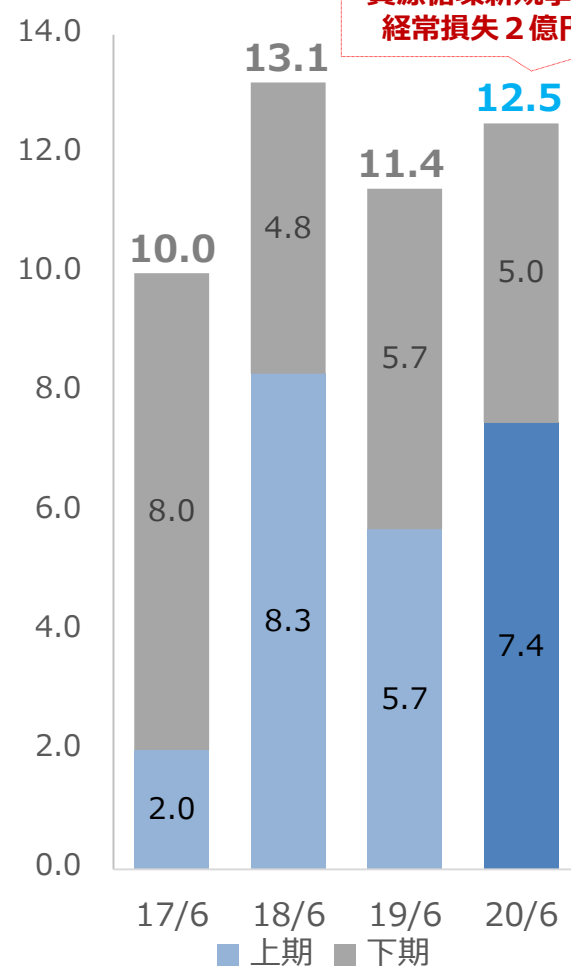
(単位：億円)



経常利益

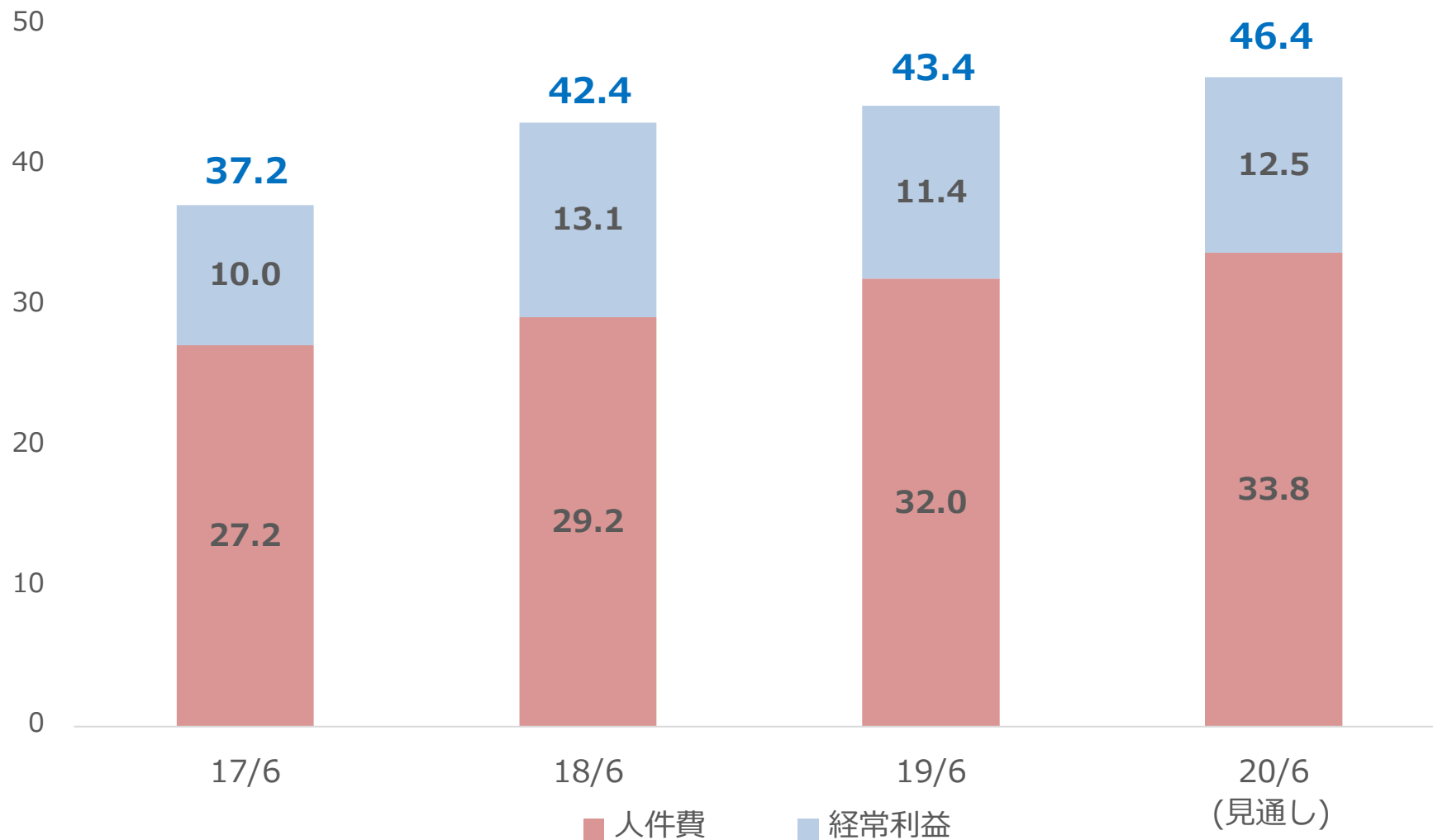
前年同期比
9.6%増

(単位：億円)



人件費 + 経常利益

(単位:億円)



中長期の取り組み

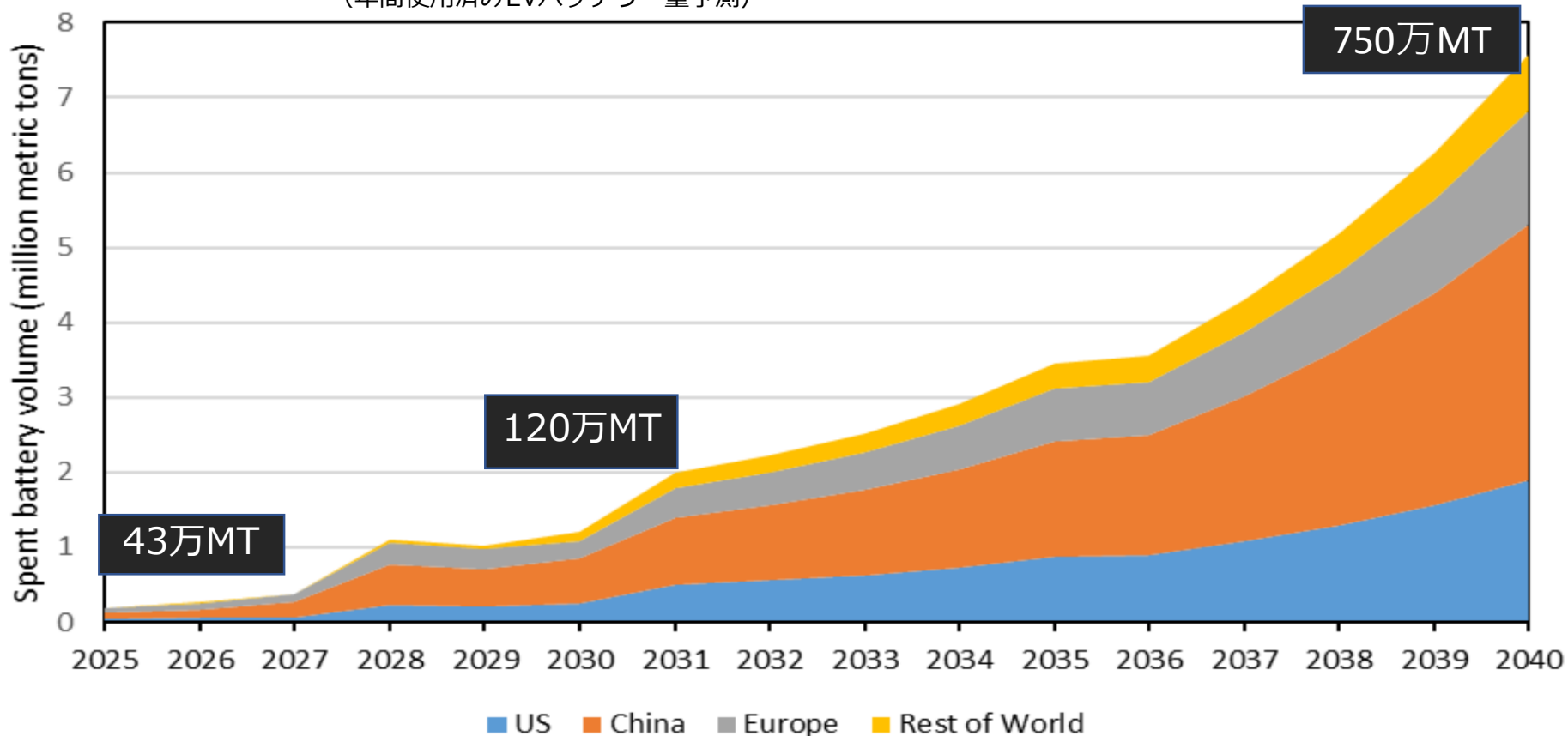
- ① LIBリサイクル事業の現状及びセカンドフェーズ
- ② 金銀滓回収事業の拡大
- ③ 木質系バイオマス燃料取扱いの拡大
- ④ 廃プラスチックリサイクルの新たな取り組み
- ⑤ 企業価値の向上イメージ図

①LIBリサイクル事業：EVバッテリー需要予測

2019年 17万MT予測

Projected Global Spent EV Battery Volume

(年間使用済みEVバッテリー量予測)



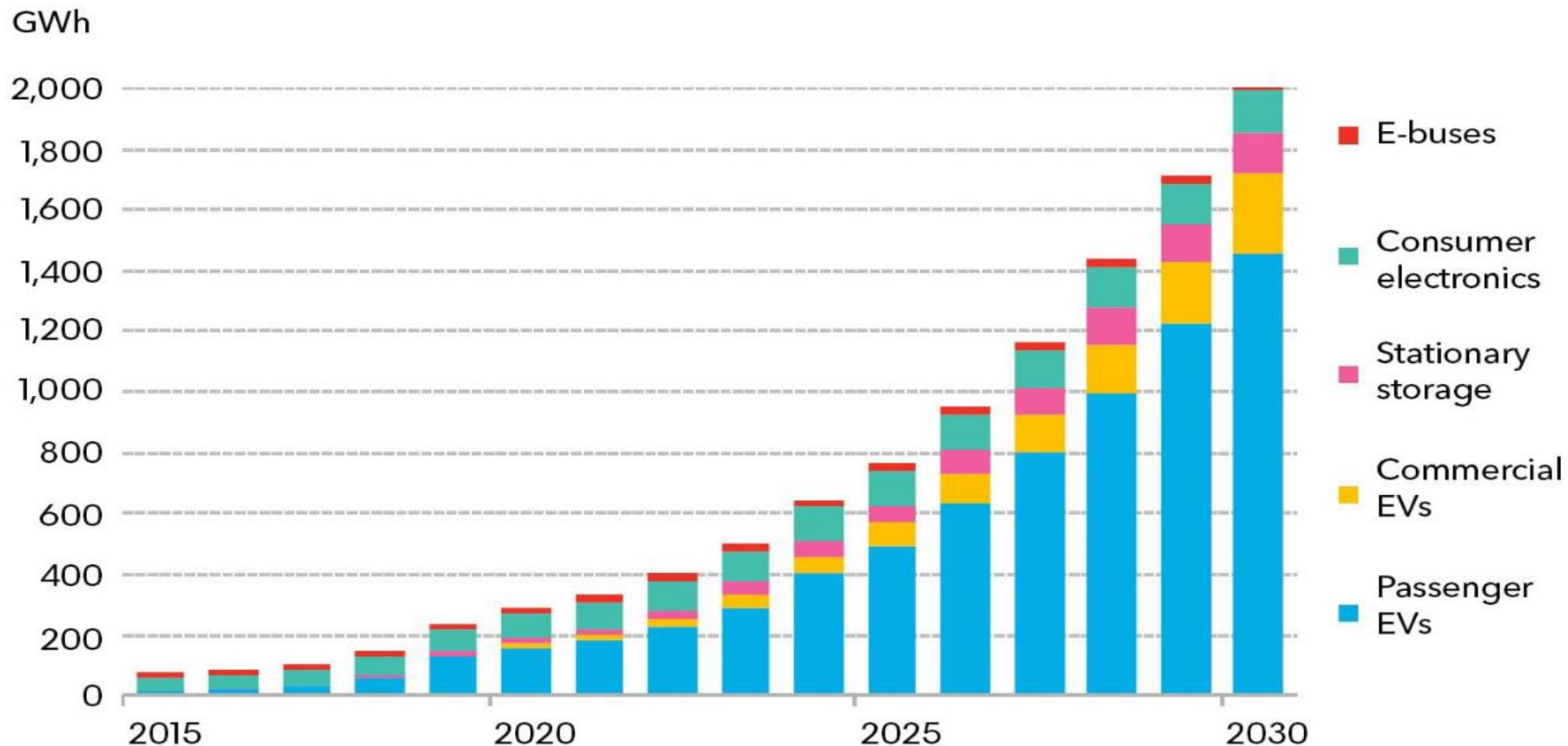
(ANL projection based on IEA global PEV projection)

※上記出展資料を一部当社加工

①LIBリサイクル事業：LIB需要予測

Annual lithium-ion battery demand

(年間LIB需要予測)



Source: BloombergNEF, Avicenne

①LIBリサイクル事業：現状

急拡大する2次電池市場に対し、グループの経営資源を集中的に投入して、使用済み2次電池等からのレアメタル（ニッケル・コバルト等）回収事業に本格的に参入する

VOLTAの現時点の状況

LIBリサイクル設備の導入が第1四半期に完了
2020年第3四半期より生産開始

2018年9月 電極材リサイクルライン稼働/負極板生産開始



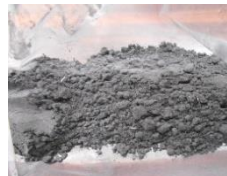
負極板



電極材リサイクルライン



銅



カーボン等

2020年2月 ブラックサンド製造設備稼働



LIB



ブラックサンド製造設備



Co、Ni濃縮滓
(以下、BS)

湿式製錬法による

硫酸コバルト



硫酸ニッケル



炭酸リチウム

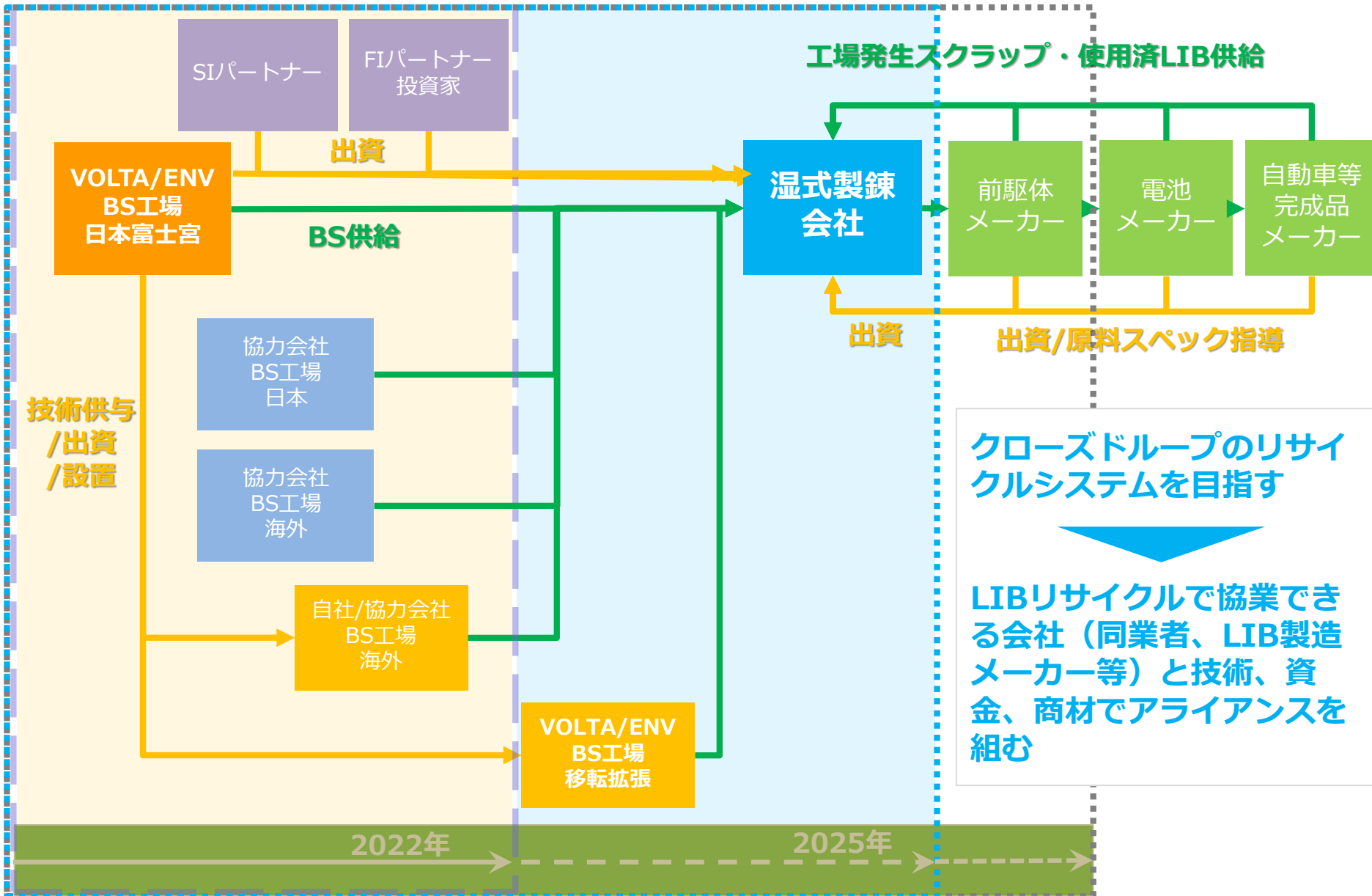


等の有用金属回収

※回収物は、例示

BS以降のプロセス
本格検討開始

① LIBリサイクル事業：セカンドフェーズ



※BS : Black Sand (Co、Ni濃縮滓)

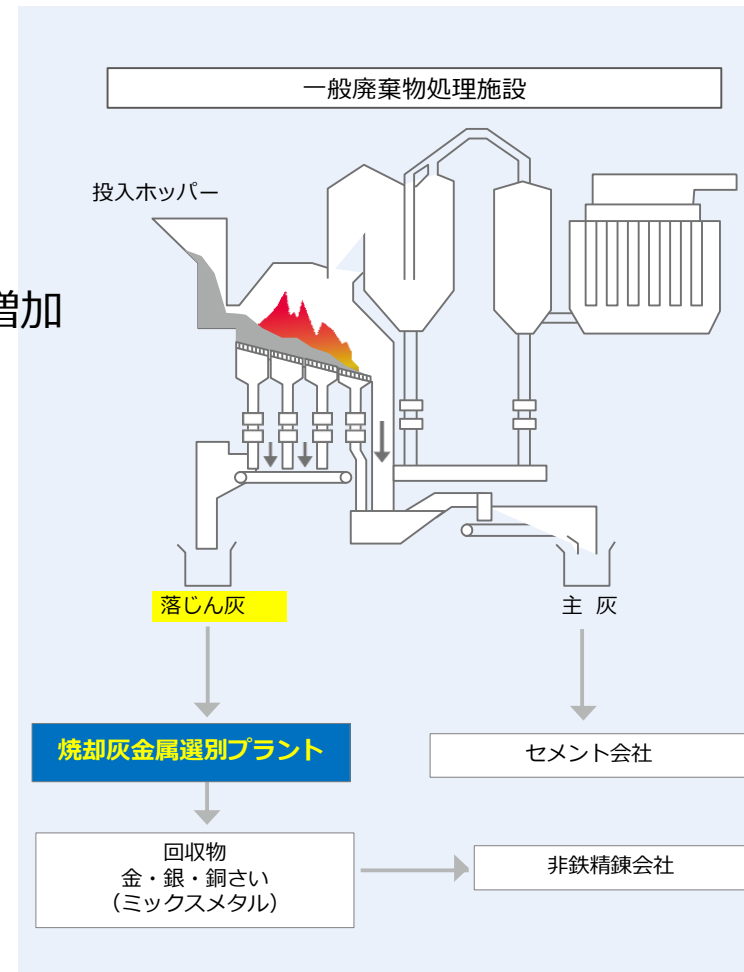
②金銀滓回収事業：現状

焼却灰、自動車破碎残渣等からの金銀滓（銅、金、銀、プラチナ、パラジウム
の混合物）の回収を事業の柱の1つにしていく

2020年6月期 見通し

金銀滓売上高	9億円（前期7億円）
金回収量	80kg（前期61kg）
銀回収量	1,000kg（前期845kg）

- 既存一般廃棄物焼却施設の落じん灰等の取引自治体数増加
⇒現在8自治体と契約済、20自治体が取引を検討中
- 新炉での落じん灰別取りシステムがA市清掃センター、
B市清掃組合の2か所で採用予定
- 小型家電、雑品等からの金銀滓回収
- 太平洋セメント(於大船渡工場)との実証事業
- 大手製錬会社からの加工受託拡大（電子基板等）
- 欧州等からの金銀滓輸入を本格立上げ
（欧州拠点開設：10月）
3月にポーランド、イギリスからトライアル入荷



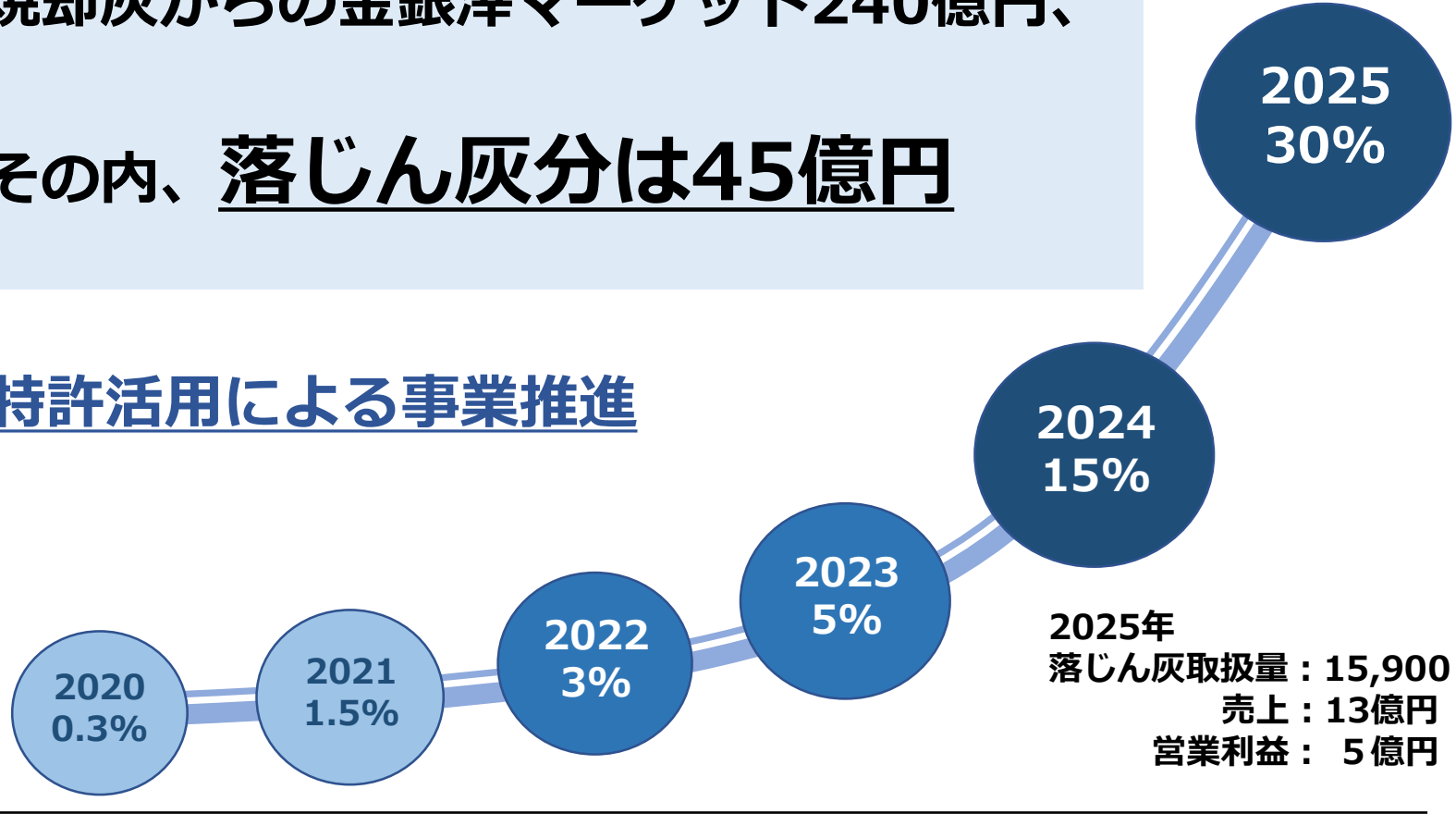
②金銀滓回収事業：落じん灰拡大戦略

マーケットシェア

焼却灰からの金銀滓マーケット240億円、
その内、落じん灰分は45億円

ストーカ炉
240施設契約
(全国800施設)

特許活用による事業推進



2025年
落じん灰取扱量：15,900 t
売上：13億円
営業利益：5億円



- ・地道な自治体営業
- ・全都清等での啓発活動
- ・焼却炉メーカーとの連携

- ・落じん灰別取り改造補助金制度の創設
- ・地域リサイクラーとの協業体制
- ・更なる選別技術革新

- ・落じん灰別取り設計のごみ処理施設設計要領への記載
- ・新設炉落じん灰の別取り100%達成

③木質系バイオマス燃料取扱いの拡大

今後更に拡大する日本市場へ、バイオマス発電所のニーズ(品質と長期安定供給)に合ったWood Pellet (ゼロカーボン燃料) を供給する。

木質系バイオマス燃料需要予測 (日本マーケット)

(単位:万MT)

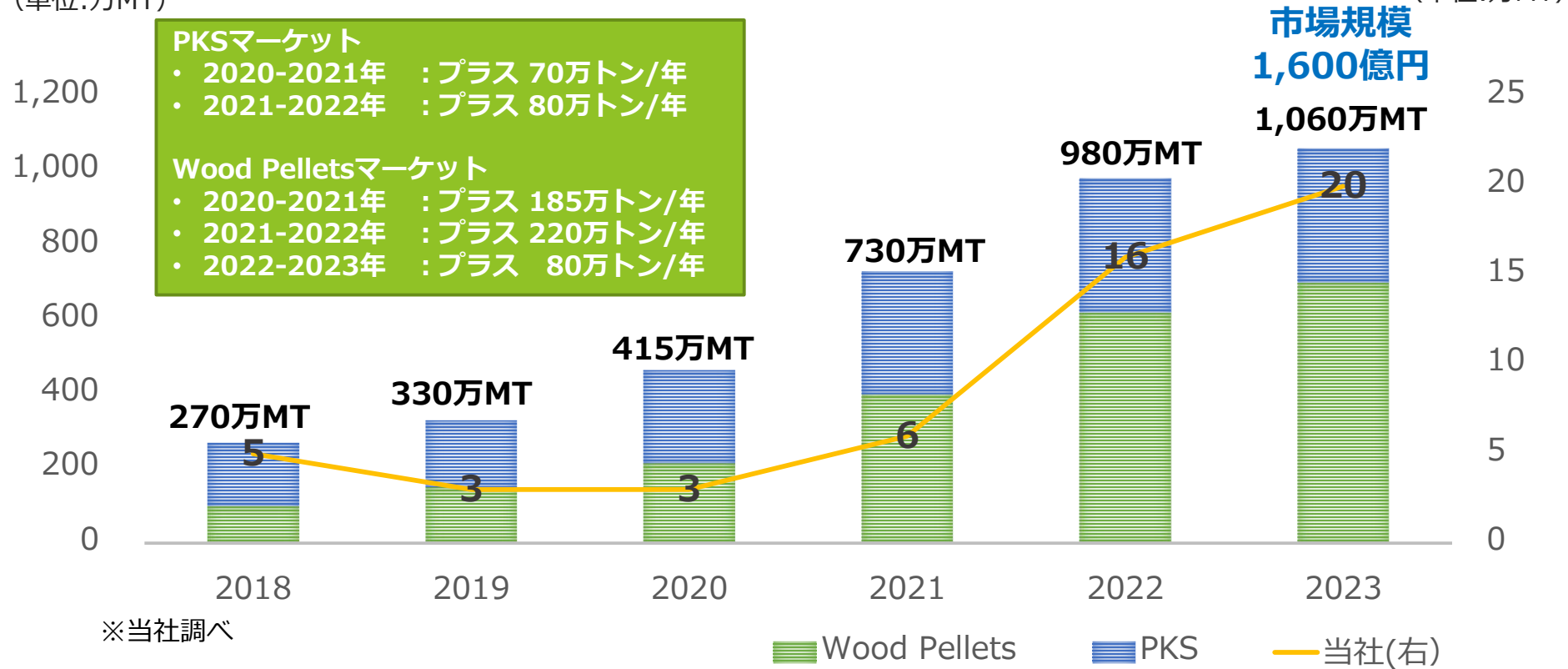
(単位:万MT)

PKSマーケット

- ・ 2020-2021年 : プラス 70万トン/年
- ・ 2021-2022年 : プラス 80万トン/年

Wood Pelletsマーケット

- ・ 2020-2021年 : プラス 185万トン/年
- ・ 2021-2022年 : プラス 220万トン/年
- ・ 2022-2023年 : プラス 80万トン/年



※当社調べ

拡大に向けて

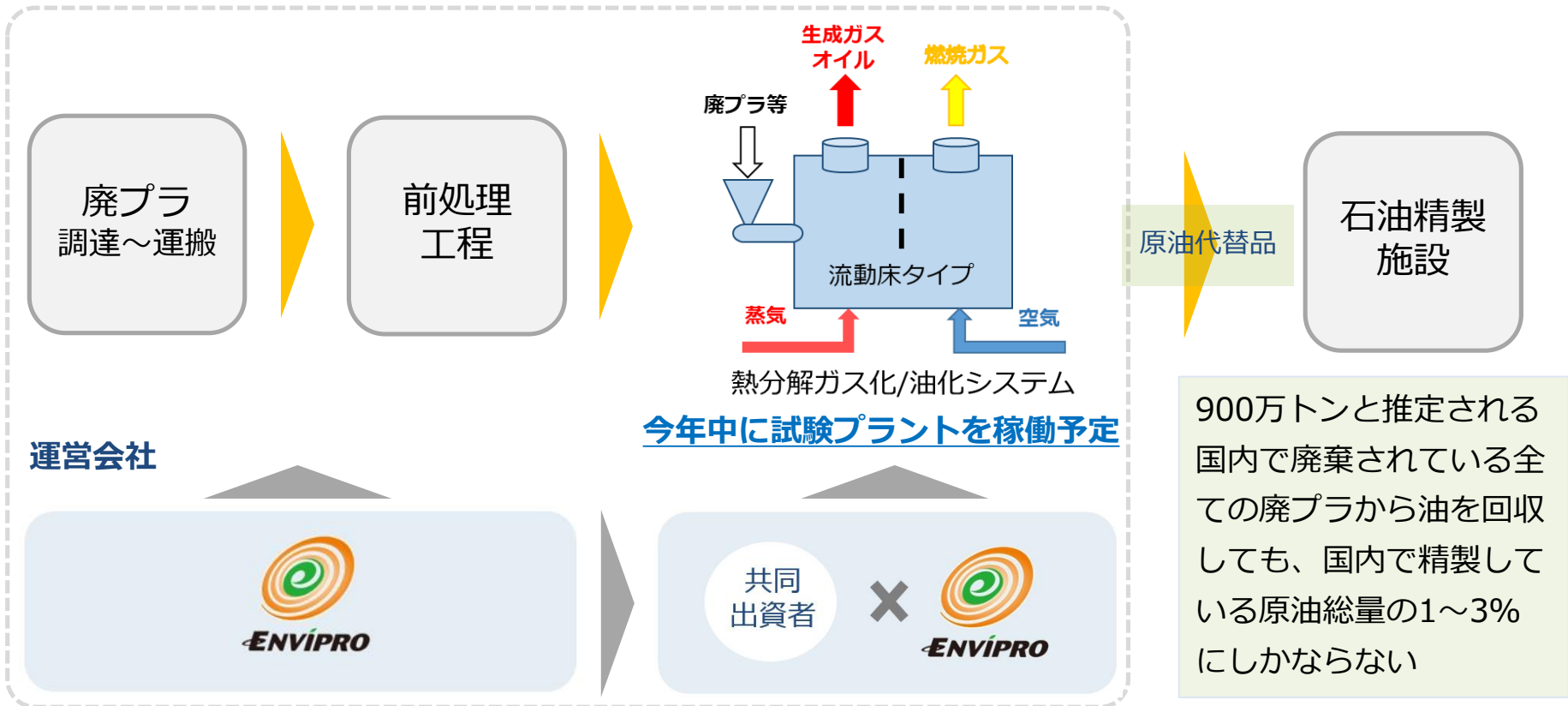
- P K S、木質ペレット集荷拠点の拡大検討
- 海外木質ペレット製造工場の検討

④ 廃プラスチックリサイクルの新たな取り組み

化石燃料代替となる原料の製造を、焼却炉メーカー、石油精製会社と一緒に検証していく

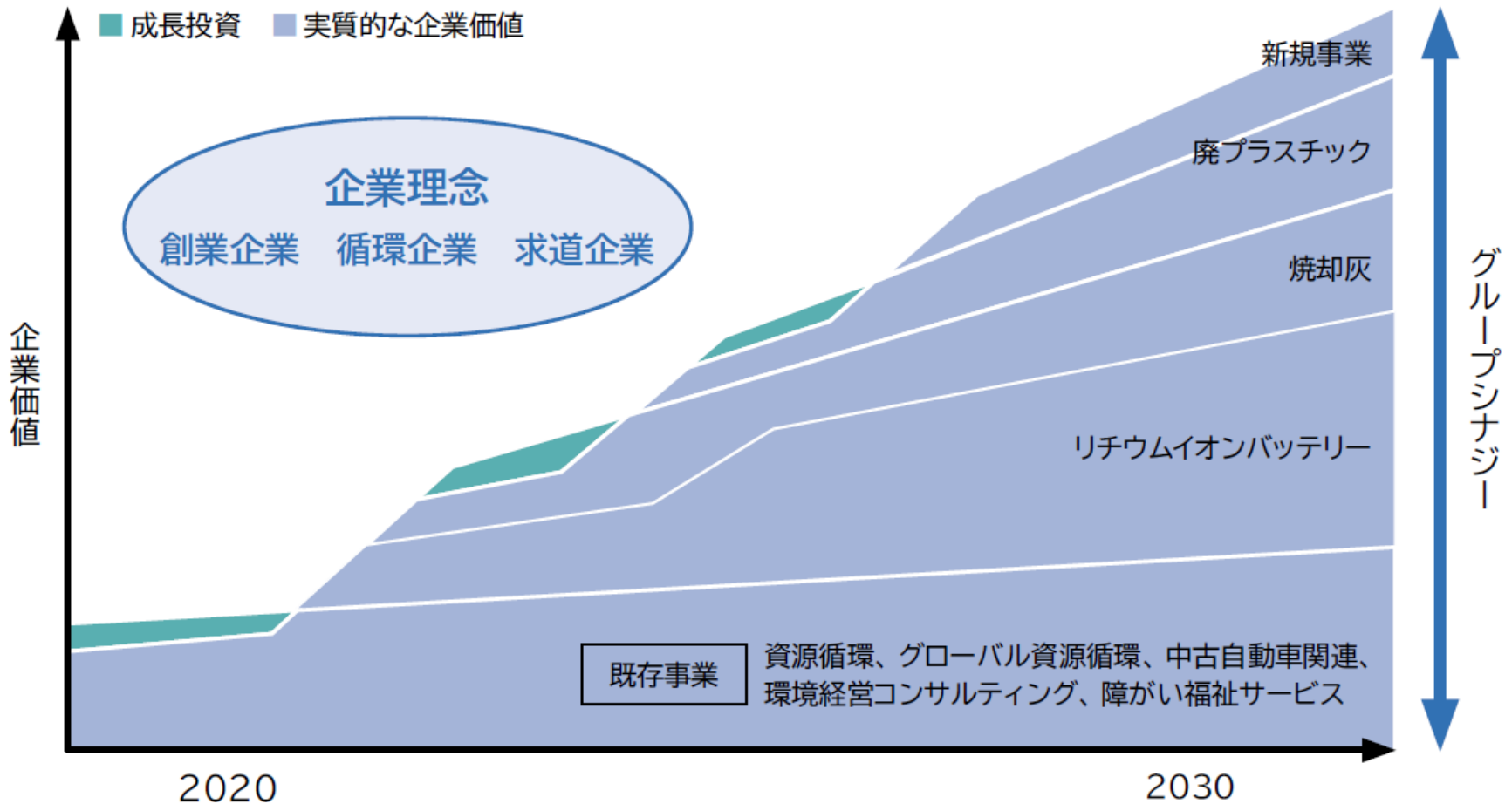
ケミカルリサイクルの研究 ～都市油田を掘り起こす～

想定事業モデル概要



⑤ 企業価値の向上イメージ図

利益配分	
成長投資	30%
研究開発	10%
株主還元	20~30%
内部留保	30~40%



事業が安定するまでは、初期投資に見合う企業価値の上昇が見込めないため、企業価値の上昇は鈍化します。緑のエリアはそのマイナス分のギャップを表しています。

3. 会社概要

グループ概要



本	社	静岡県富士宮市田中町87番地の1
代	表	代表取締役社長 佐野富和
設	立	2010年5月
グ	ル	グループ会社
ー	プ	
会	社	連結子会社12社(孫会社含む)、持分法適用関連会社2社
従	業	従業員数
員	数	
		単体30名(連結418名) ※2019年6月末現在

事業セグメント	事業会社、部門
資源循環事業	(株)エコネコル加工部門、(株)クロダリサイクル、(株)しんえこ、(株)東洋ゴムチップ、(株)プラ2プラ、(株)VOLTA 持分法適用関連会社 (株)アビツ、(株)富士エコサイクル
グローバル資源循環事業	(株)エコネコル貿易部門
中古自動車関連事業	(株)3WM (海外子会社3社含む)
その他	(環境経営コンサルティング事業) (株)ブライトイノベーション (障がい福祉サービス事業) (株)アストコ
調整	(株)エコネコル共通、(株)エンビプロ・ホールディングス

※従業員数は正社員数

国内拠点

■ 連結子会社（海外含む）

■ 12社

■ 国内ヤード拠点数

■ 12カ所

■ 国内加工拠点

■ 10カ所

船積地点

場 所	ヤード
北海道 函館港	鉄スクラップヤード
新潟県 直江津港	鉄スクラップヤード
千葉県 船橋港	鉄スクラップヤード、非鉄スクラップヤード
千葉県 佐倉市	中古自動車ヤード
神奈川県 川崎港	鉄スクラップヤード、非鉄スクラップヤード
神奈川県 横浜港	中古自動車ヤード
静岡県 田子の浦港	鉄スクラップヤード
静岡県 清水港	鉄スクラップヤード、非鉄スクラップヤード
愛知県 飛鳥新港	中古自動車ヤード
愛知県 名古屋港	鉄スクラップヤード
大阪府 南港	非鉄スクラップヤード
兵庫県 尼崎港	鉄スクラップヤード

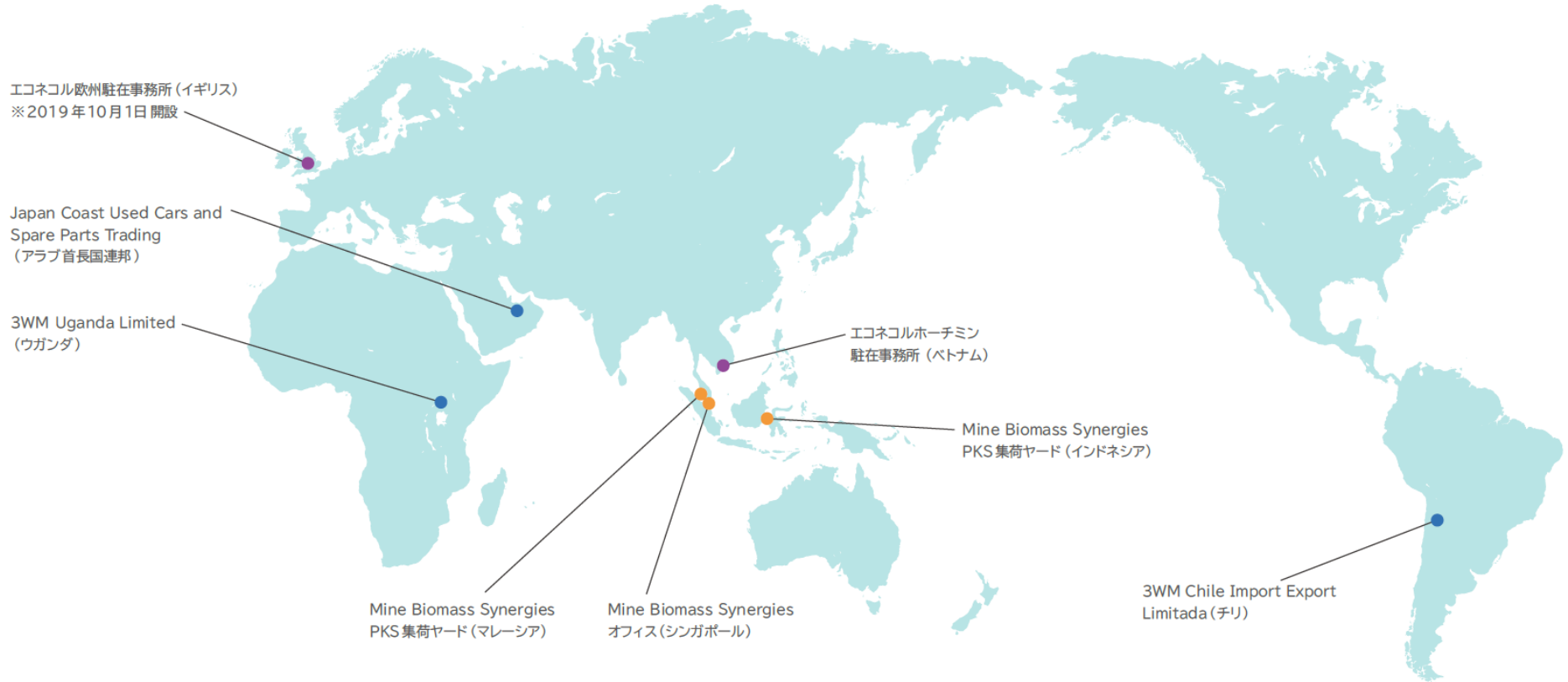
国内拠点

本社 = ★



海外拠点

- リサイクル資源営業拠点
- 中古自動車拠点
- バイオマス燃料拠点



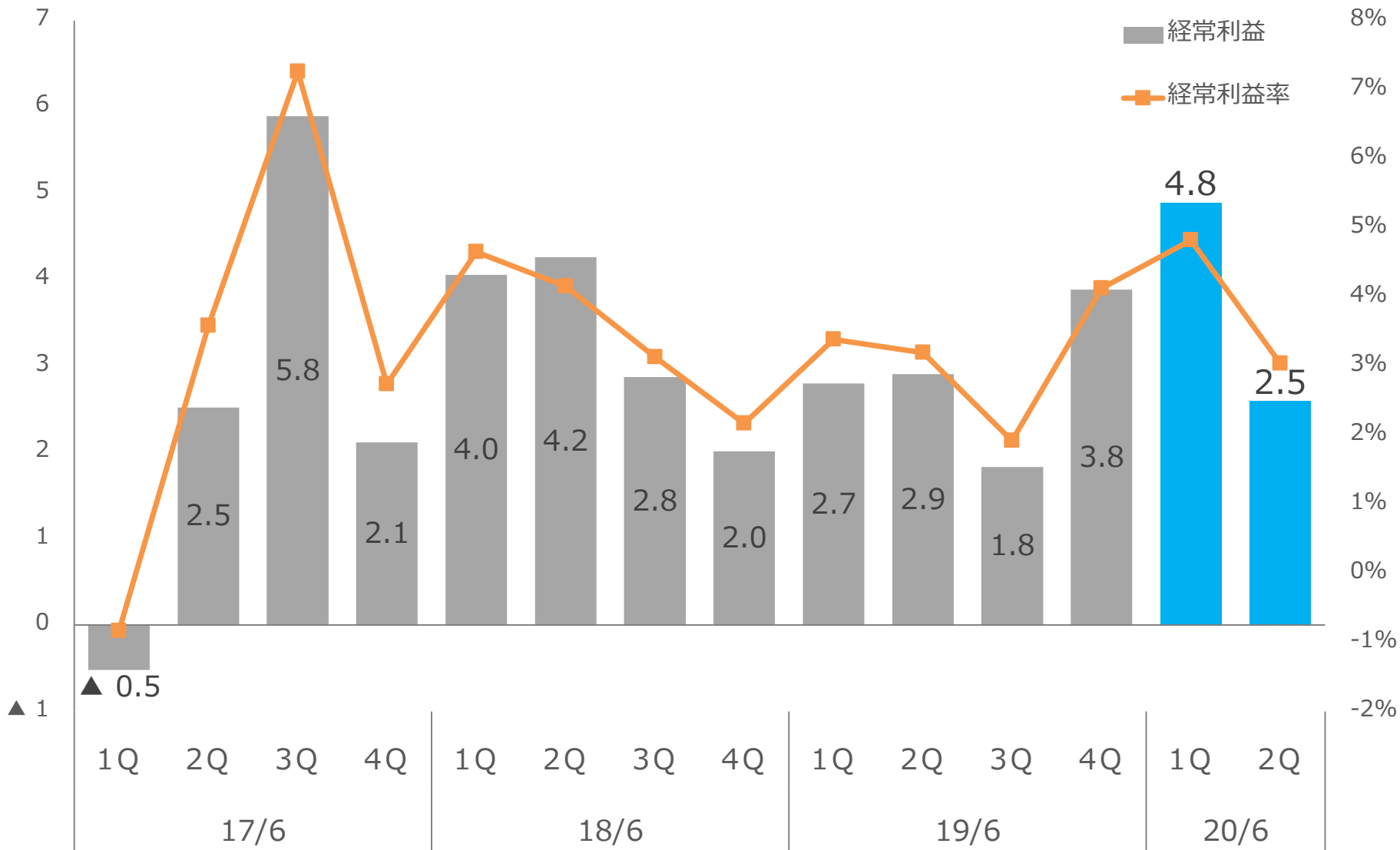
グループ沿革



4. 参考データ

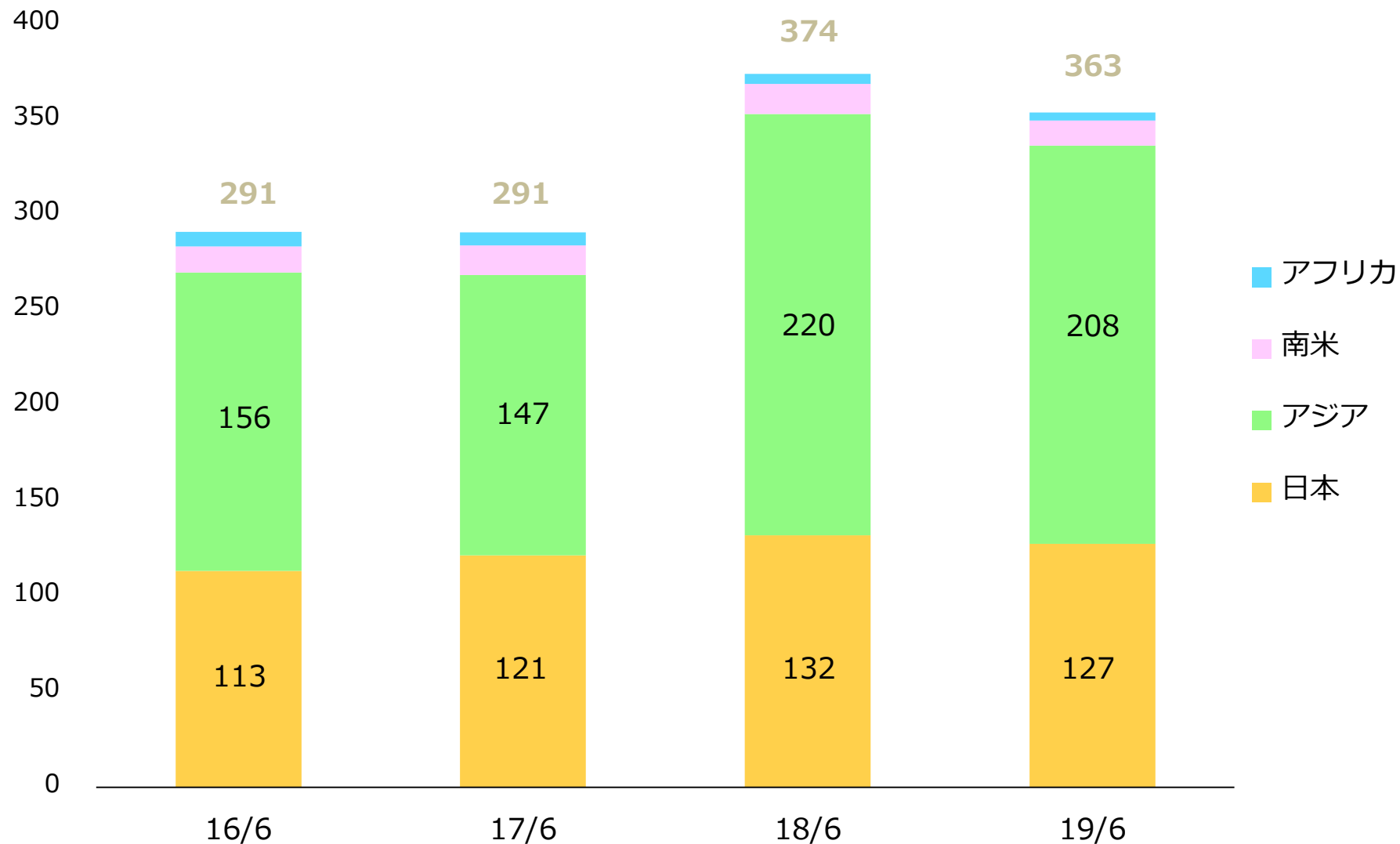
四半期經常利益推移

(単位：億円)



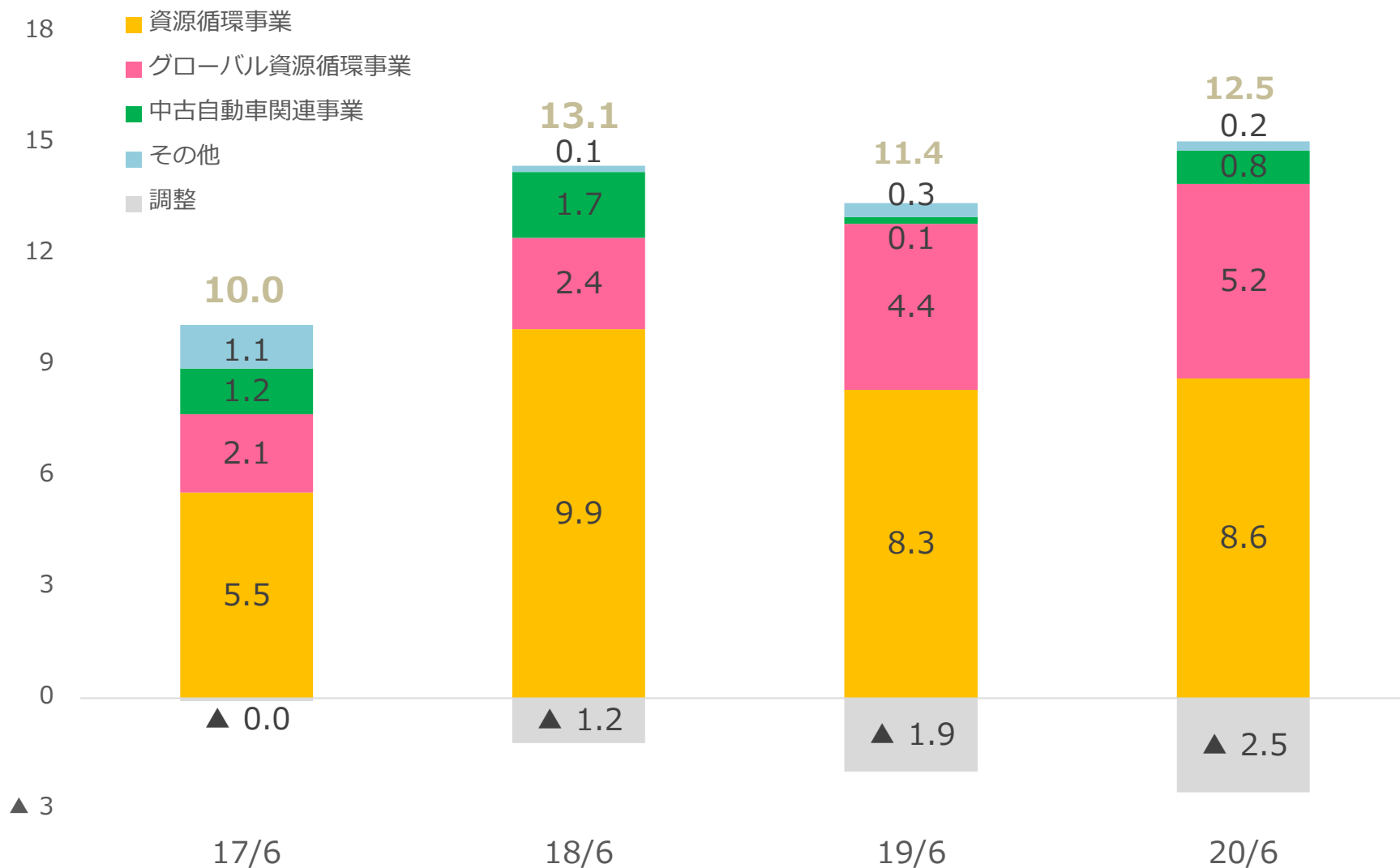
地域別売上高推移

(単位：億円)

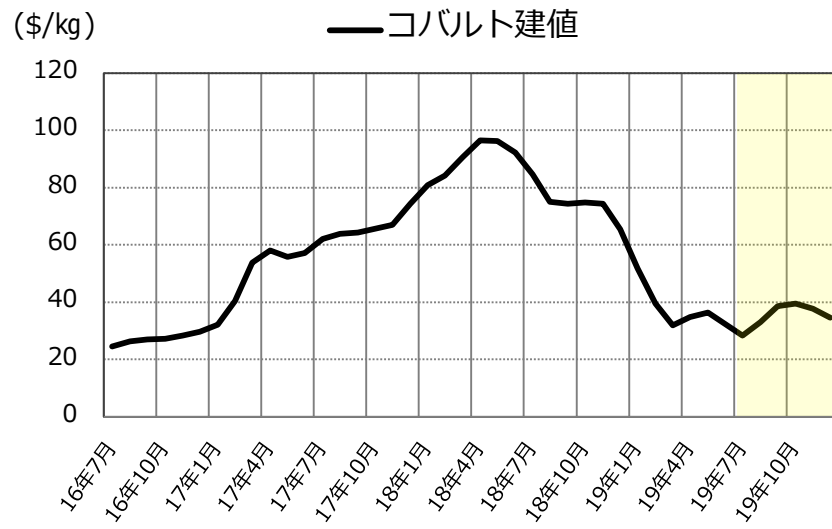
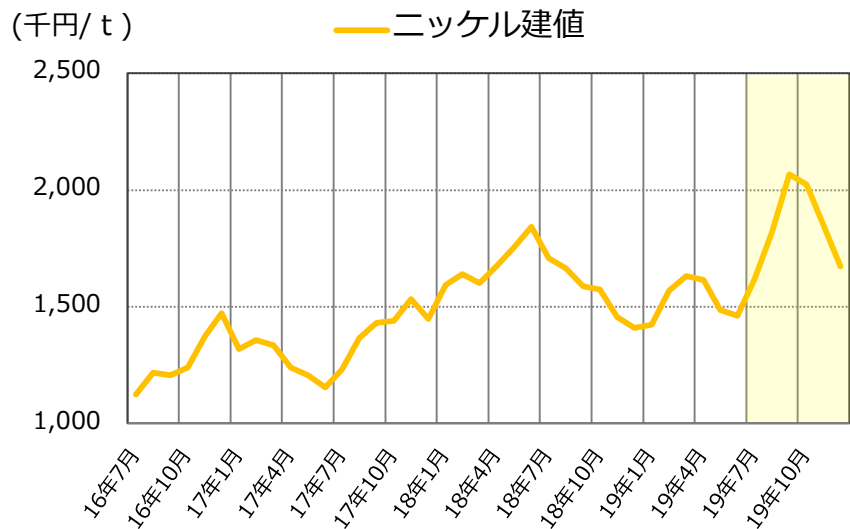
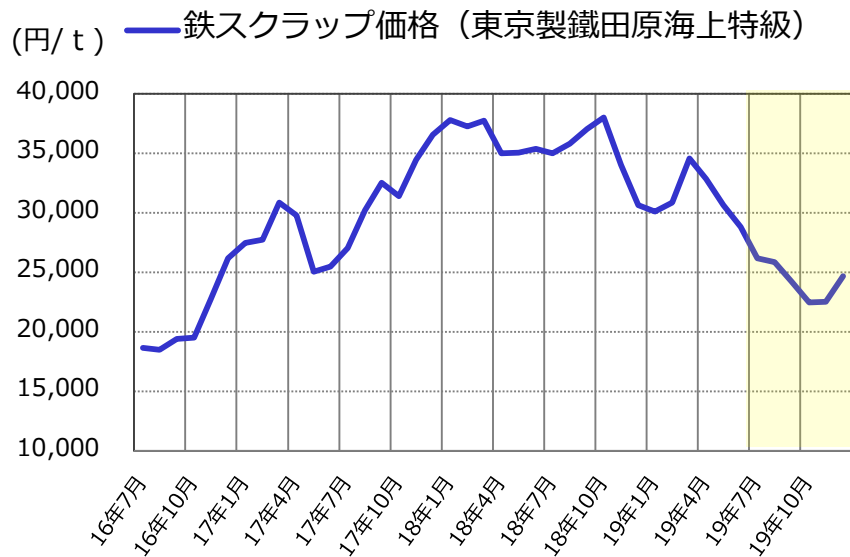


セグメント別利益推移見込み

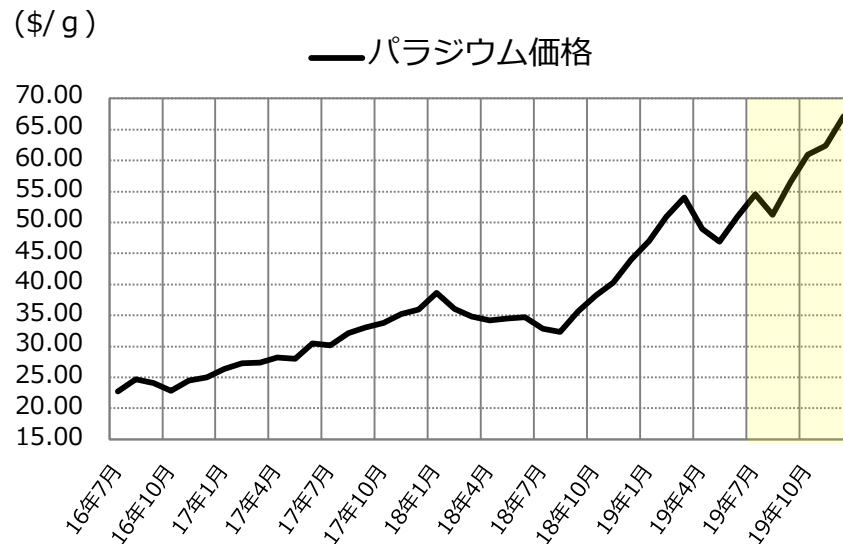
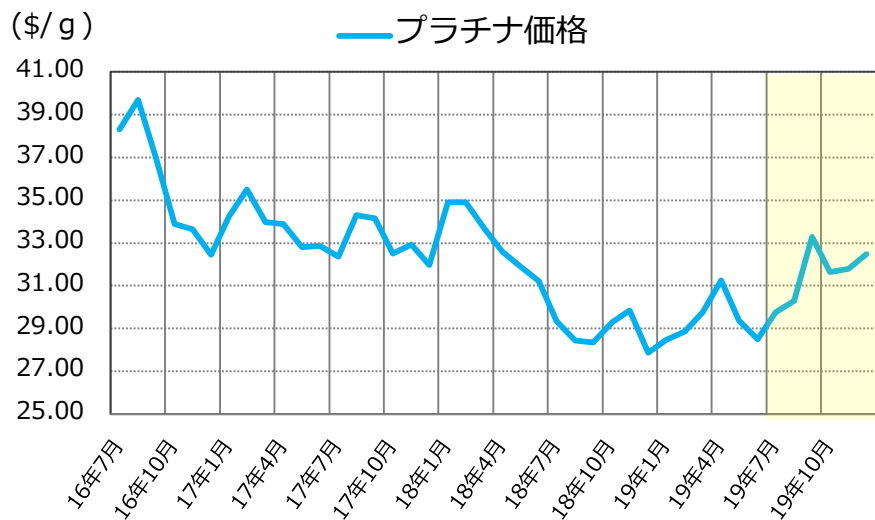
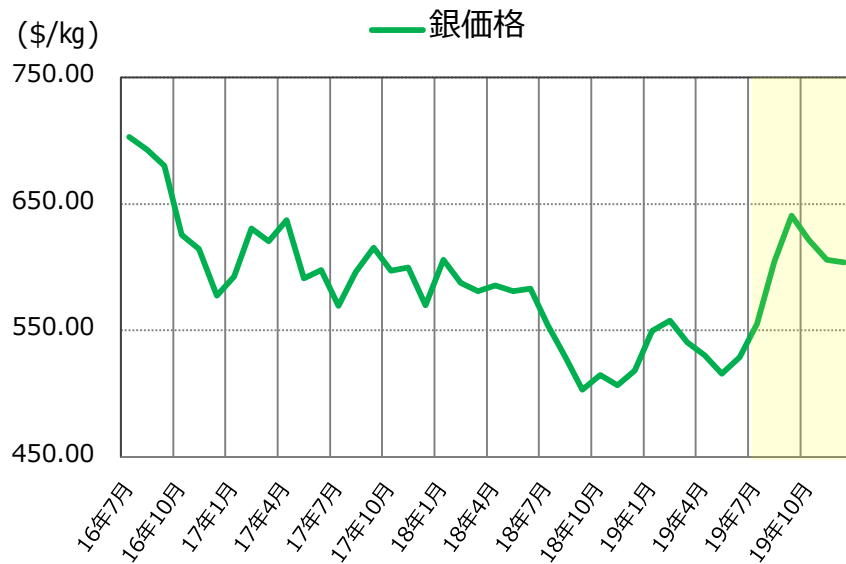
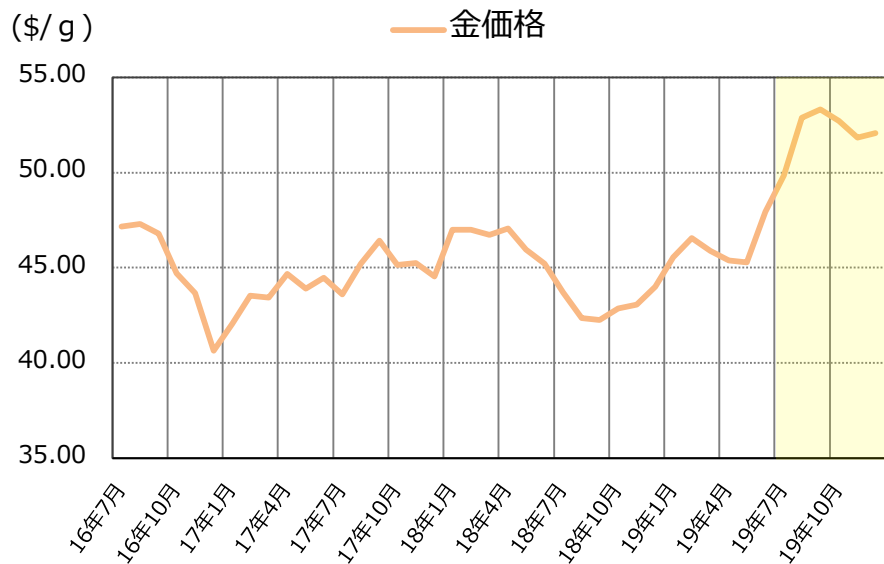
(単位：億円)



相場推移①



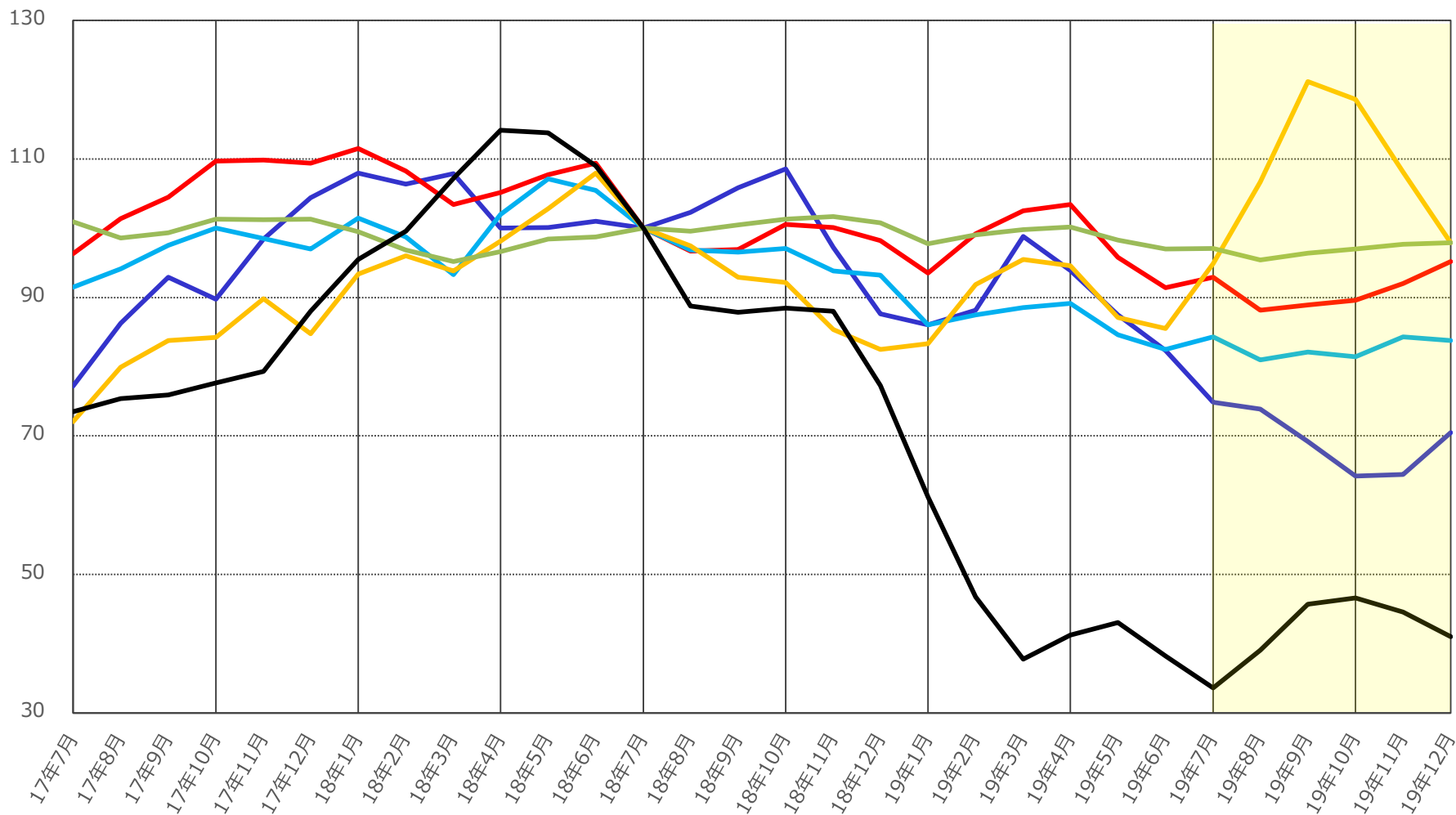
相場推移②



相場推移③

金属相場の推移 (INDEX推移 2018年7月を100とする)

鉄スクラップ価格 電気銅建値 アルミ建値 ニッケル建値 ドル/円 為替 コバルト価格



(出所) 東京製鐵(株)、(株)日本経済新聞社、一般社団法人日本電線工業会、(株)日刊産業新聞社、IRUNIVERSE(株)

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社エンビプロ・ホールディングスの現状を理解していただくために作成したものです。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及びIRに関するお問い合わせ先】

株式会社エンビプロ・ホールディングス 経営企画部

TEL (0544) 21-3160

URL <https://www.envipro.jp/>